		現	行						改定]内容		
材 必 アルカリ骨材反応料 須 対策	「アルカリ骨材反応抑 制対策について」(日 成14年7月31日付 け国官技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0	1 セメン 材料 ト・コンク リート・ロンク リート・コ ンクリート ダム・優工	必 アルカリシリカ反 須 応抑制対策	「アルカリ骨材反応利 制対策について」(平 成14年7月31日付 け国官技第112号、 国連環第35号、国空 建第78号)」		骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び密地が変わった場合。		
	JIS A 1102JIS A 5005.	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び座地が変わった 場合。		0	コンクリー ト・吹付け コンクリー トを除く)	そ 骨材のふるい分け の 試験 他	JIS A 1102JIS A 500	5」設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		
骨材の密度及び吸 水平試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	地転密度 2 531上 棚舎材の数大学 3.5%以下 棚舎材の数大学 3.5%以下 (保管・終石、高炉スラグ番材、フェロニッ ケルスラグ組合材、個スラグ番材の規格値 については換要を参照)		35 1 5055 (22か)・用除石及び協的) 183 1 605 (22か)・用スラグ報酬 第 1 部 : 高炉ス ラグ報社 1 3 5 5011-2 (23か)・用スラグ報酬 第 2 部 : フェロ エッケルスラグ報社 第 2 部 : フェロ エッケルスラグ 1 3 3 5 5011-3 (23か)・用スラグ電料 第 3 部 : 類スラ リア 1 5 5011-4 (23か)・用スラグ電料 第 4 部 : 電気炉 間を 2 元 9 元 9 元 9 元 9 元 9 元 9 元 9 元 9 元 9 元	0		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5006 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	総称憲度: 2.5以上 総対4の後本部: 3.5以以下 総対4の後本部: 3.5以以下 (係終・発行、高炉スク/骨材、フェロニッ ケルスラブ(総対が、銀スラグを得材の規格値 については幾度を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び癌地が変わった 場合。	18 4 505 (マ/サー用金石及び発金) 18 4 5011-1 (マ/サー用ネタグ中水-第1 部: 高中スタグ中水-第1 部: 高中スタグ中水- リガス 4 501-2 (マ/サー用ネタグ中水-第2 部: フェローマケススタグライ リガス 4 501-3 (マ/サー用ネタグ中水-第3 部: 第2 スタ 18 4 501-3 (マ/サー用ネタグ中水-第4 部: 電気が 単化ネタグ中水) 18 5 4 501-4 (マ/サー用ネタグ中水-第4 部: 電気が 18 5 4 501-4 (マ/サー用ネタグ中水-第1 2 第2 3 5 5 5 6 5 6 5 6 5 6 5 6 6 6 6 6 6 6 6	2
租骨材のすりへり 試験	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下 舗装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場合。		0		ディー 記録	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下 締装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月 以上及び産地が変わった場合。		
骨材の微粒分量試 験	JIS A 5308	合は25%以下 租骨材 時石 3.0%以下(ただし、粒形判定実績率 58%以上の場合は5.0%以下)	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び底地が変わった 場合。 (山砂の場合は、工事中 1 回/週以上)				クスト 合材の微粒分量試験 コンクリリ	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	合は25%以下 租骨材 砕石 3.0%以下(ただし,粒形利定実績率 55%以上の場合は5.0%以下) スラグ租骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等)1.0%以下 細骨材	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		Ī
		スラグ編巻材 5.0%以下 村記別・(69時間 7.0%以下 前書材 1.0%以下(たたし、すりへり作用を 辞句・(59時間 7.0%以下(たたし、すりへ)作用を 好き(後上、シルト等を含まない場合) 7.0%以下(たたし、すりへ)作用を受ける場合に5.0%以下) 用を受ける場合に5.0%以下) (大きないないないないないで) インリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			0		一トを使用する場合、		それ以外(毎科等)1.0%以下 維育材 発命 9.0%以下(ただし、ナリヘリ作用を 受ける場合は5.0%以下) 静砂 (格土、シルト等を含まない場合) 場合は5.0%以上、サリヘリ作用を受ける 場合は5.0%以下、サリヘリ作用を受ける 用を受ける場合は5.0%以下 ヘリ作用を受ける場合は5.0%以下 ヘリ作用を受ける場合な9.0%でしただし、ナリ ヘリ作用を受ける場合な9.0%でしただし、ナリ ヘリ作用を受ける場合な9.0%以下			
砂の有機不純物試 験	1		工事開始前、工事中 1 回/年以上及び産地が変わった 場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0		除砂の有機不能物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	t
モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0		モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		t
骨材中の粘土塊量 の試験		細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。		0		骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		Ť
硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材: 10%以下 粗骨材: 12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び座地が変 わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び座地が変わった 場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0		硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	總骨材:10%以下 租骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砂砂砂、砂石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。 :	1
セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0		セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	□ T 本開始前、工事中1回/月以上		
ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0		ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		t
練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	經濟物質の量: 2g/l以下 溶解性無発残留物の量: 1g/l以下 塊化物イン量: 200pの以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結160分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中 1 國/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を 使用していることを示す資料による確認を行う。	0		練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	 経満物質の量: 2g/1以下 溶解性蒸発疫留物の量: 1g/1以下 塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内、 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上。 	工事開始前及び工事中1回/年以上及び木質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	上水道を使用している場合は効繁に換え、上水道を 使用していることを示す資料による確認を行う。	Ī
	回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	0			回収水の場合: JIS A 5308附属書C		工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	その原木は、上木道木及び上木道木以外の木の規定 に適合するものとする。	T

		現	!行					改定	内容	
施 必 塩化物総量規制工 須	「コンクリートの耐久性向上」	原例0.3kg/m3以下	コンクリートの打造が年間と午間にまたがる場合 は、各額にに関コンクリート打算的に行い、その話 地線数が当体地線の影響機関の2027の場合は、年 快の経験を将続することができる。(1試験の測定 個数は3回とする)試験の料定は3回の測定機の平均 機。	・ 育村に海炒を使用する場合は、「海炒の塩化制イ オン含有率試験方法」(3SC-6502-2013,503-2007) または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略で きる。	1 セメン 施工 ト・コンタ 工 リート (転 ビコンタ リート・コ ンクリ 原上 コン・吹付け コンクリートを給く)	必 塩化物総量規制 須	「コンクリートの耐久 性向上」	原副0.3kg/a5以下	コンクリートの打技が年間と年間にまたがる場合 は、年間に1回コンクリード打容的に行い、その状 連絡が当性(か能の 別報節の 1227 の場合は、年 代かり数を名称することができる。(1)契頼の限定 回数は13回とする) 契頼の利定は3回の激定値の平均 値。	・小規模工程会では、報告・の総数用業が30mの表現の 場合は工程展記しか発表。または、ディーミッス トンクリー・工程の高度質明書から、ナイラント ができる。1工程係とりの接触業が80m以上の総合 、50m2でとは可能を行う。「最終の位化をイ ・特別に関係を任用する場合は、「最終の位化をイ またに設け継承を発用する場合は、「最終の位化をイ またに設け継承を発展とより行う。 ・用人規模をそれない無路構造物の場合は省略で きる。
				※小規模工事とは、以下の工種を除く工種とする。 (積合、相固、杭類 (場所打核、井間基礎等)、模 足上部工 (株)、高機等)、機型工 (第合 la以 上)、開單工、機門、機管、水門、水路 (内幅2 Ob 以上) 護岸、父瓜女塚、トンネル、紡銭、その他 これらに無する工種及び特記仕様書で指定された工 種)	P 2 Mr√J					安小規模工事とは、以下の工能を除く工能とする。 (権合、補助、代策、(補所行称、并限基礎等)、 様と比部工 (情介、未収、高額等)、 接触工 (個子、超中、大路、(内線と ou 以上) 漢称、父太乙塚、トンキハ、維致、その他 これりに領する工権及び特別化体費を(指定された工 (相)
華位水豊剛定	「レディミクストョン ・ の品質報金に ・ クストコンクリート ・ のかまの変更 ・ のかまの変更 ・ のかまの変更 ・ のかまのである。 ・ のがまのである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるである。 ・ のがなである。 ・ のがなであるでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	一 新芝した単収水量が、配合的計士18以内の の間間にある場合は大りの言葉にしている の間間にある場合は大りの言葉にしていませます。 2 大型化域の2 10回 12 10 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12		東方配合の単位大量の上陸機は、相音料の最大寸法 が2 0 mm・2 5 mmの場合は17 5 k g / m3、4 0 mmの場合は16 5 k g / m3を基本とする。		単位水量測定	レディクストコン シリー・の必要では、 ウルでは、(ビレディーマ ウストコンクリー な大量が受験(集) (存金は等3月8日季報連 (新))) 南部に上旬的水量が、配合物中に50cmの の機能にある場合性である者面に10cmの の機能にある場合は、20cmの 20 初度に上旬的水量が、配合物子に60種 よこかを20cmの の原因を開業し、生コン形度が高さび酵子の の原因を開業し、生コン形度が高さび酵子の で、運搬車の3分類に10cmの では、20cmの では、20cmの では、20cmの を関すっない を関する。 20cmの がある。 20cmの がある。 20cmの がある。 20cmの がある。 20cmの がある。 20cmの 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo 20cmo	10m ² /日以上の場合: 2個人は「任前上限」では、重要構造物 2個人は「任前上限」で、100~15 to m ² ごとは、 現実が書から地点直管化が認められたときとし 測定回載は多い方を採用する。	が外角なの様と乗り上開館は、単等材の基本では、 25 20 mm ~ 25 mm ~ 35 mm ~
スランプ試験	JIS A 1101	スランプSen以上8cm未満:許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下:許容差±2.5cm スランプ2.5cm:許容差±1.0cm	・荷斯し時 「添り上たは 相談・日または 相談・日または あられた時。ただし、選連機関第コンツリートは なった。ただし、選連機関第コンツリートは は一大学選挙をリートを用した場合は ・選売機工家の場合、全業業事業を ぞうが、スラー プロ機工家の場合、全業業事業を ぞうが、スラー プロ機会の場合と、できる。 となっては、 となっては、 のでする。 のでする。 のでは、 のでは、 のでは、 のでする。 のでは、 のでする。 のです。 のでする。 のです。 のです。 のでする。 のです。 のです。 のです。 のでする。 のでする。 のででする。 のでする。 のでする。 のでする。 のです。 のででする。 のでです。 のでです。 のででする。 の			スランプ試験	JIS A 1101	スランプSca以上Sca来博 : 背容差±1.5ca スランプSca以上Sca以下: 背容差±2.5ca スランプ2.5ca : 背容差±1.0ca	・奈原上時 - 奈原上時 - 京島ノ田は、横浩修の高東度とエネの機能に応じ - 700~150m2 とに1回。及76m1 中に高東電便が 認められた時、ただし、遊路機能第二クリート版 記してディースクエンフリートを用いる場合は原 前として金融機能能をどの影響機能を行うが、スター - 72機能の機能が変し自身が参加されて後である。 - 72機能の機能が変し自身が参加されて機能がある。 とができる。	・小規模工程会では工程会との設定用度が50mの表現の 場合は工程展回以上の発揮。またはレディーミクス トングラートは周回以上の発揮、さたはレディーミクス デマきの、工程当たりの接便用度が50m以上の場合 に 50m2でよりの対象を行う。 「14世末と 50m2を上の対象を行う。 (14性、 50m2でよりの対象を行う。 (14性、 50m2でよりの対象を行う。 (14性、 50m2を上の対象を行う。 (14性、 50m2を上の対象を行う。 (14性、 50m2を上の対象を行う。 (14性、 50m2を上の対象を行う。 (14性、 50m2を行う。) (14性、 50m2を行う。) (14性、 50m2を行う。) (14性、 50m2を行う。) (14性、 50m2を行う。)
コンクリートの圧 総強度試験	E JIS A 1108	同の試験結果は指定した呼び強度の85%以 上であること。 図の試験経験の平均値は、指定した呼び強 度以上であること。 (図の試験結果は、3個の供試体の試験値の 平均値)	・荷加し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20から1508.2 ことに回 なお、テストピースは打放場所で取取し、1回につき 標準要をと投資をの各価(の7・・3個、の23・・3 個)の計12個とする。 ・早始セントを使用する場合には、必要に応じて1 回につき3個(の3)を追加で採取する。	(a)		コンクリートの圧 総強度試験	JIS A 1108	国の対象結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 上であること。 加回の対象結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (国の対象結果は、3個の供終体の対象値の 平均値)	- 青知上時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ で20から160点ごとに回 なお、テストピースは打撃場所で採取し、回につき 領帯発生と規範機をの各個(σ7・・3個、σ2*・・3 - 実権セメト・6を関する場合には、必要に応じて1 回につき3個(σ3)を追加で採取する。	- 化ウル明 9 5上程及び守広山旅舎で併たされた上 間
空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (許容差)	・荷割し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~150m3ごとに1回、及び荷割し時に品質変化が認 められた時。			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷加し時 1回/日 <mark>以上、標</mark> 造物の重要度と工事の規模に応じ て20~150m3ごとに1回、及び荷加し時に品質変化が 認められた時。	
コンクリートの曲 げ強度試験(コン クリート舗装の場 合、必須)	JIS A 1106	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき 2回(午前・午後)の割りで行う。なおテストピース は打設場所で採取し、1回につき原則として3個とす る。			コンクリートの曲 げ強度試験 (コン クリート舗装の場 合、必須)	JIS A 1106	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以 上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強 度以上であること。	コンクリート舗装の場合に適用し、打設日1日につき2回(午前・午後)の割りで行う。なおテスト ビースは打設場所で採取し、1回につき原則として 3個とする。	
そ コアによる強度試 の 験	t JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			そ コアによる強度試	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。	
他 コンクリートの洗 い分析試験	JIS A 1112	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			他 コンクリートの洗 い分析試験	JIS A 1112	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。	

			現	行							改定	内容		_
レキャ 材 g ンク 料 刻 他)	。 セメントのアルカ 値 リ骨材反応対策	アルカリ骨材反応抑制 対策について(平成1 4年7月31日付け国 官技第112号、国港 環第35号、国空建第 78号)	アルカリ骨材反応抑制対策について(平成 1 4年7月31日付け国官技第112号、国港 理第35号、国空建第78号)	1回/6ヶ月以上および在地が変わった場合		0	4 プレキャ ストコンク リート製品 (その他)	材必料額	セメントのアルカ リシリカ反応抑制 対策	アルカリ骨材反応抑制 対策について(平成1 4年7月31日付け国 官技第112号, 国港 議第35号, 国空建第 78号)	アルカリ骨材反応抑耐対策について (平成1 4年7月31日付け国官技第112号, 国港 環第35号, 国空建第78号)	1回/6ヶ月以上および密地が変わった場合		=
	コンクリートの塩化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3kg/m3以下	1回/月以上 (塩化物量の多い砂の場合1回以上/週)		0			コンクリートの塩 化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3kg/m3以下	1回/月以上 (塩化物量の多い砂の場合1回以上/週)		
	コンクリートのス ランプ試験/スラ ンプフロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	製造工場の管理基準	1回/日以上		0			コンクリートのス ランプ試験/スラ ンプフロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	製造工場の管理基準	1回/日以上		
	コンクリートの圧 縮強度試験		1回の試験結果は指定した呼び強度の85% 以上であること 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強 度以上であること (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値 の平均値)	1回/日以上		0			コンクリートの圧縮強度試験	JIS All08	1回の試験結果は指定した呼び強度の85% 以上であること 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること (1回の試験結果、13個の供試体の試験値 の平均値)	1回/日以上		
	コンクリートの空 気量測定 (凍害を 受ける恐れのある コンクリート製 品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5% (許容差)	1 圆/日以上		0			コンクリートの空 気量測定 (東害を 受ける恐れのある コンクリート製 品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5% (許容差)	1回/日以上		
	骨材のふるい分け 試験(粒度・素粒 率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および産地が変わった場合		0		その他	骨材のふるい分け 試験 (粒度・素粒 率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 IIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および産地が変わった場合		
		JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および産地が変わった場合	JIS A 5005 (砕砂及び砕石) JIS A 5001+(高原スラグ青材) JIS A 5001-2 (フェロニッケルスラグ細骨材) JIS A 5011-3 (銅スラグ細骨材) JIS A 5011-3 (銅スラグ細骨材) JIS A 5012 (電気炉酸化スラグ細骨材) JIS A 5021 (コンクリー・用再生骨材)	0		(JIS 7 - 2	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および座地が変わった場合	IIS A 5005 (砕砂及び砕石) IIS A 5011-1 (高炉スラグ書材) IIS A 5011-2 (フェロー・ケルスラグ細骨材) IIS A 5011-3 (鎖スラグ細骨材) IIS A 5011-4 (電気が飛行スラグ細骨材) IIS A 5021 (コンクリート用充生材相)	
	祖骨材のすりへり 試験	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および座地が変わった場合		0		表示され	祖骨材のすりへり 試験	JIS A 1103 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上および産地が変わった場合		
	骨材の微粒分量試 験		担骨材: 1.0%以下 総骨材: コンクリートの表面がすりへり作用 を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0% 以下(移砂およびスラグ総骨材を用いた場合 はコンクリートの表面がすりへり作用を受け る場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)	1回/月以上および産地が変わった場合 (微粒分量の多い砂1回/週以上)		0		たレディーミクス	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	組骨材: 1.0%以下 細骨材: 1.ンクリートの表面が干りへり作用 を受ける場合2.0%以下、その他の場合5.0% 以下(砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合 はコンクリートの表面が干りへり作用を受け る場合5.0%以下その他の場合7.0%以下	1回/月以上および底地が変わった場合 (微粒分量の多い砂1回/週以上)		
	砂の有機不続物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。濃い場合で も圧縮強度が90%以上の場合は使用できる	1回/月以上および産地が変わった場合	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材 のモルタル圧縮強度による試験方法」による試験方法」による。	0		トコンクリ	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。濃い場合で も圧縮強度が90%以上の場合は使用できる	1回/月以上および座地が変わった場合	濃い場合は、JIS A 1142「有様不純物を含む細性 のモルタル圧縮強度による試験方法」による試験 法」による。	1- 0
	骨材中の粘土塊量 の試験粘土塊量の 試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	1回/月以上および座地が変わった場合		0		ソートを使	骨材中の粘土塊量 の試験粘土塊量の 試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	1回/月以上および産地が変わった場合		-
	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 組骨材:12%以下	砂、砂料: 工事間始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砂砂、砕石: 工事向始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。		0		用する場合は除く	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 租骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前: 工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前: 工事中1回/年以上及び産地が変わった 増合。		-
	セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	1回/月以上		0		2	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	1回/月以上		
	セメントの化学分 析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (ツリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			0			セメントの化学分 析	JIS R 5202	JIS R 5214 (エコセメント) JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5212 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			
	コンクリート用混 和剤・化学混和剤	JIS A 6207	JIS A 6201 (フライアッシュ) JIS A 6202 (勝張剤) JIS A 6204 (勝張剤) JIS A 6205 (防せい剤) JIS A 6206 (筋炉い剤) JIS A 6206 (あ炉スラグ敷粉末) JIS A 6207 (シリカフューム)	1回/月以上 ただし、JIS A 6202 (膨張材) は1回/3ヶ月以上、 JIS A 6204 (化学混和剤) は1回/6ヶ月	試験成績表による	0			コンクリート用混 和剤・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS & 6214 (ユーエァンド) JIS A 6201 (フライアッシュ) JIS A 6202 (鬱蛋剤) JIS A 6204 (化学途内剤) JIS A 6206 (添炉エラグ微粉末) JIS A 6207 (ジリカフューム)	1回/月以上 ただし、JIS A 6202 (修張材) は1回/3ヶ月以上。 JIS A 6204 (化学混和剤) は1回/6ヶ月	光 験成績表による	
	練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び水道水以 外の水の場合: JIS A 5308 付属書3	極濁物質の量:2g/L以下 溶解性高発預解物の量:1g/L以下 溶解性高発預解の量:1g/L以下 塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの過転時間の差:約発は30分以内。 終結は60分以内 セルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	1 回/月以上及び水質が変わった場合	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を 使用してることを示す資料による確認を行う	0	水項に練く		練混ぜ木の水質試験	上水道水及び水道水以 外の水の場合: JIS A 5308 附属書C	整議物質の量:2s/L以下 溶解性感発残留物の量:1s/L以下 塩化物イオン量:200pps以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内, 終結は80分以内。 モルタルの圧縮強度比:材飾7及び28日で 99%以上	1回/月以上及び水質が変わった場合	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道 使用してることを示す資料による確認を行う	

TACKED
があってはならない。

細骨材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.22	2回/日 (中前・午後)で、3本1億/回。 報音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 回/日。 総音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 以下日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時	含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー域 酸がやなえずおこなえない場合に適用する。なお問 変力がは試験の記憶をから作録に示した意大法によ このが需要しい。 ホワイトベースに使用する場合:40%以下	0 0 0 0	12 転任コンクラート	材料(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場の必須	コンシステンシー で以来 マーシャル突き図 テンター デきる を 木化試験 テンター のはま デンター のはな を 木化試験 デンタリー のの に を おい の で が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に を な が の に	JIS A 1102	議議施工便能の一寸による。 日間紙 日間紙 一部の は一点を は一点を は一点を は は は は は は は は は は は は は	当初 当初 当初 コ紀/日 (午前・午後) で、3 本1 和/説。 随者付30ma, 他者材50ma3ごとに1回。からいは1 回/日。	含水比は、品質管理試験としてコンレステンシー 繋がやウスすおこなえない場合に適用する。なま で方法は試験の力速性から付替収に示した個人法 ののが働ましい。
自動機	曲初 曲初 二個/日 (午前・午後) で、3本1個/回。 個者料500gごとに1回。あるいは1回/日。 組者料500gごとに1回。あるいは1回/日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時		0 0 0	3 462 = 2 2 9 9 - 5 1	材料(JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場の必須	マーシャル突き固め が験 ランマー突き固め が験 含水比試験 コンクリートの曲 げ強度試験 骨材のふるい分け 対象 骨材の単位容積質 重対数	が A 1203 JIS A 1203 JIS A 1106 JIS A 1102 JIS A 1104	日報値 : 50号 研究 正 便要かつぶことの。 日報値 : 50% 開放 中 : 50% 開放 中 : 50% の の の の の の の の の の の の の	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法
議議 議議	当初 2回/日(午前・午後)で、3本1組/回。 超青科300m3、相青科500m3ごとに1回。あるいは1 間が日。 田青科300m3、相青科500m3ごとに1回。あるいは1 関が日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時		0 0 0		〈JISマーク表示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合 その他	ランマー突き因め 試験 含水比試験 含水比試験 コンクリートの曲 げ強度試験 骨材のふるい分け 試験 骨材の単位容積質 量対験	が A 1203 JIS A 1203 JIS A 1106 JIS A 1102 JIS A 1104	議会施工便製かかぶによる。 目標施 開発 1:90% 研禁施工便製かかぶによる。 目標施 解説の本:97% 設計協善による。 設計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計協善による。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 の計成者をはる。 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが、 のが	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法
議接施工便費の-3-1による。 自機権 勝風の事: 97% 設計優書による。 総計優書による。 議施工使業 議を施工使業 のののでは、1000年 を持ちます。3.20 設計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 総計優書による。 250日 ・10	当初 2回/日 (午前・午後) で、3本1種/回。 総書材500m3、総書材500m3ごとに1回。あるいは1 図/日。 総書材300m3、総書材500m3ごとに1回。あるいは1 図/日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時		0 0 0		マーク 表示されたレディー ミクストコンクリート を使用する場合	含水比試験 コンクリートの曲 げ強度試験 骨材のふるい分け 試験 管材の単位容積質 量試験	JIS A 1203 JIS A 1106 JIS A 1102 JIS A 1104	議装施工便要かつぶによる。 日極値 解説の事:97% 設計研書による。 総計研書による。 場体施工便管 編件材準-1.3、20 程件材料-1.3、22 の計研書による。	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法
設計図書による。 設計図書による。 総数以工程度 総数以工程度 総対表3、3.20 組制材表3、3.20 設計図書による。 ジが図書による。 ジが図出たの場合は5.00k以下 がある以上の場合は5.00k以下) 本に以外、(2044年) 第一,10k以下) 本に以外、(2044年) 第一,10k以下) 本に以外、(2044年) 第一,10k以下) ないが、(2044年) 第一,10k以下) ないが、(2044年) 第一,10k以下) ないが、(2044年) 第一,10k以下) ないが、(2044年) 第一,10k以下) ないが、(2044年) 第一,10k以下) は、(2044年) 第一,10kx以下) は、(2044年) 第一,10kx以下) は、(2044年) 第一,10kx以下) は、(2044年) 第一,10kx以下) は、(2044年) 第一,10	2回/日 (中前・午後)で、3本1億/回。 報音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 回/日。 総音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 以下日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時		0 0 0		示されたレディーミクストコンクリートを使用する場合	含水比試験 コンクリートの曲 げ強度試験 骨材のふるい分け 試験 管材の単位容積質 量試験	JIS A 1106 JIS A 1102 JIS A 1104	解説の本: 97% 設計協善による。 設計協善による。	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法
	2回/日 (中前・午後)で、3本1億/回。 報音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 回/日。 総音科500m3、指音科500m3ごとに1回。あるいは1 以下日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時		0 0 0		レディーミクストコンクリートを使用する場合	げ強度試験 者材のふるい分け 試験 者材の単位容積質 量試験	JIS A 1102 JIS A 1104	: 請抜砲工便覧 維育材表-3.3.20 他計材表-3.3.22 設計協書による。	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	定方法は試験の迅速性から付録7に示した直火法
	報書林500m3ごとに1個、あるいは1 個/日。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ホワイトペースに使用する場合:45%以下	0 0		ミクストコンクリートを使用する場合	げ強度試験 者材のふるい分け 試験 者材の単位容積質 量試験	JIS A 1102 JIS A 1104	: 請抜砲工便覧 維育材表-3.3.20 他計材表-3.3.22 設計協書による。	継骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。 総骨材300m3、租骨材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	
設計図書による。 別計図書による。 35以下 諸国第市地559以下 諸国第市地559以下 (ただし、教影判定実標率 359以下(ただし、教影判定実標率 359以下(ただし、教影判定実標率 47以別、(50以下 47以別、(50以下 47以別、(50等) 35以下 (ただし、発修では私た・シルト等を含まな い場合は509以下)	報書材300m3、報書材500m3ごとに1個、あるいは1 図/日。 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時	ホワイトベースに使用する場合:40%以下	0 0		トコンクリートを使用する場のその他	試験 骨材の単位容積質 量試験	JIS A 1104	細骨材表-3.3.20 租骨材表-3.3.22 設計図書による。	回/日。 翻作材300m3、租作材500m3ごとに1回、あるいは1 回/日。	
設計図書による。 355以下 植電声冷地556以下 (ただし、核影判定実標率 3.056以下(ただし、核影判定実標率 3.056以下(ただし、核影判定実標率 4.500以下(たがし、対象以下 4.50以下(2.050以下 4.50以下 4.50以下(2.050以下 4.50以下 4.50	工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時	ホワイトベースに使用する場合:40%以下	0		クリートを使用する場の				田 /日。	
35以下 機能素冷却25%以下 機能を冷かして ただし、 数熱利定実標率 分の 3.0%以下 ただし、 数数利定実標率 35%以上の場合は5.0%以下 大ラグ機材 5.0%以下 (本)以外で、	工事開始前、材料の変更時 工事開始前、材料の変更時	ホワイトベースに使用する場合: 40%以下	0	1	・を使用する場へ	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109	鈴井図書に上る	The second secon	
報音材 3 0%以下 (ただし、総計判定実標率 5%以上の場合は5 0%以下) その以上の場合は5 0%以下) その以外 (60%以下) その以下 それ以外 (60%以下) それ以外 (60%以下) それ以外 (60%) 1 0以下 それ以外 (60%) 3 0以下 (ただし、辞物では私上・シルト等を含まな い場合は5 0%以下)	:				する場合		JIS A 1110	NAME OF STREET OF STREET	工事開始前、材料の変更時	
スウン相管材 5.0%以下 七丸以外・砂利等)1.0%以下 細管材 砕砂、スラグ組管材 5.0%以下 それ以外・砂等) 3.0以下 (ただし、砂砂では粘土、シルト等を含まな い場合は5.0%以下	:		0	1 1	87	租骨材のすりへり 試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地25%以下	工事開始前、材料の変更時	ホワイトベースに使用する場合:40%以下
	工家開始的 经付出表面的				除	骨材の微粒分量試 験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	租骨材 砕石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実績率 58%以上の場合は5.0%以下 スラグ租舎材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材	工事開始前、材料の変更時	
	上 争用知別、材料の変更時	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0					##育材 静砂、スラグ細骨材 5.0%以下 それ以外 (砂等) 3.0以下 (ただし、砕砂では粘土、シルト等を含まな い場合は5.0%以下)		
圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0			砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、材料の変更時	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。
総骨材:1.0%以下 租骨材:0.25%以下	工事開始前、材料の変更時	頻察で問題なければ省略できる。	0			モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。	
細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	工事開始前、材料の変更時	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0			骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	工事開始前、材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。
.IIC R 5211 (幸福セメント)	工事開始前、工事中1回/月以上					硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験		細骨材: 10%以下 粗骨材: 12%以下		寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。
	王事開始前、王事中1回/月以上					セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) IIS R 5213 (フライアッシュセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上	
			0			ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202		工事開始前、工事中1回/月以上	
G 塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材約7及び28日で	土争時間別及び工事中 1 回/ 平以上のよび小貝が変わった場合。	エル坦を使用しても場合は私際に換え、エル坦を使用してることを示す資料による確認を行う。	0			練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント) 懸濁物質の量: 2g/I以下 溶解性蒸発疫留物の量: 1g/I以下 塩化物イオン量: 200ppm以下	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。 スラッジ水の濃度は1回/H	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道 用してることを示す資料による確認を行う。
塩化物イオン量:200ppm以下	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変わった場合。	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	0					終結は50分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上		
90%以上							回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上および水質が変 わった場合。	・その原木は上水道水及び上水道木以外の水の水 に適合するものとする。
	翻音が: 10%以下 個音が: 10%以下 個音が: 12%以下 135 8 2512 (公別カセメント) 135 8 2512 (公別カセメント) 136 8 2512 (公別カセメント) 137 8 2512 (公別カウム) 137 8		服券付: 10以以下 服券付: 10以以下 服券付: 10以以下 以158 年 201 (成長・ウェント) 以158 年 201 (成長・ウェント) 以158 年 201 (ステレント) 以158 年 201 (ステレント) ステレント)	田奈村: 10以上下	日本	服券付: 10以以下 服券付: 10以以下 服券付: 10以以下 服务 (2010 (ポルトランドセメント)		■	■	■新枝: 15以上下 服育材: 15以下 服育材: 15以下 服育材: 15以下 以下 を

			現	!行						改定]内容		
工材必定料須		「アルカリ骨材反応抑制対策について」(中 成14年7月31日付 け国管技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」	同左	常材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び圧地が変わった場合。		19 吹付工	材必料額	アルカリシリカ反 応抑制対策	「アルカリ骨材反応! 制対策について」(5 成14年7月31日 け国官技第112号、 国港環第35号、国2 建第78号)」	Z. +	脊材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		
そ fi の ii	骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び座地が変わった 場合。	=	0	その他(骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び座地が変わった 場合。	:	
2	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度: 2.5以上 細管材の衛木車: 3.5%以下 粗管材の衛木車: 3.5%以下 低等砂。 64元、高原エラジで育材、フェロニッ ウルスラグ機能・銀スラグ 細管材の照格値 についてに摘要を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。	JIS A 5005 (22791-用除石及び砕砂) JIS A 5011-1 (22791-用尿力分骨材・ 1 部: 高炉ス ラグ音材) JIS A 5011-2 (22791-用スラグ骨材・第 2 部: フェロ ニッケルスラグ骨材) フタイト フタイト JIS A 5011-4 (22791-用スラグ骨材・第 3 部: 第スラ JIS A 5011-4 (22791-用スラグ骨材・ 銀化スラグ骨材) JIS A 5011-4 (22791-用スラグ骨材・ JIS A 5011-4 (22791-用スラグー格のようなアイト・ JIS A 5011-4 (22791-用スラグー格のようなアイト・ JIS A 5011-4 (22791-用スラグー格のようなアイト・ JIS A 5011-4 (22791-1円用を含材料のようなアイト・ JIS A 5011-4 (22791-1円用を含材料のようなアイト・ JI	0	JISマーク表示されたし	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶敬密度:2.5以上 維持材の吸水率:3.5%以下 維持材の吸水率:3.5%以下 用砂、砂点、虚切スカッ特は、フェロニッ から、砂点、虚切スカッ特は、フェロニッ かんスラグ維持材、銀スラグ維骨材の規格値 については頻繁を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。 [JTS 4 5005 (2)計・用路石及び砂砂) 301-1 (2)計・用スク学材・第1部: 高炉 37条 (2) (2)計・開スク学材・第2部: フェ ニッケルステク学材・ JTS 4 501-3 (2)計・用スラグ学材・第3部: 網ス グ学材・ JTS 4 501-3 (2)計・用スラグ学材・第4部: 電気 銀化スラグ学材) JTS 4 501-4 (2)計・用スラグ学材・第4部: 電気 銀化スラグ学材) JTS 4 5021(2)計・用用スラグ学材・第4部: 電気 JTS 4 5021(2)計・用用を学材の	エロスラ
15.5	骨材の微粒分量試 接		報書等 3 0%以下(ただし、動参判定実績率 50%以下(ただし、動参判定実績率 50%以下 50%以下 4 7 分類素材 50%以下 6 7 次列 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	工事開始前、工事中1回/月以上及び危地が変わった 場合 (山地の場合は、工事中1回/週以上)		0	レディー ミクス トコンクリー トを使用	育材の微粒分量試 験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	船青年 20%以下 (ただし、鞍形判定実績率 30%以上の場合は5.0%以下 2クツ組青柱 5.0%以下 2九以外 (参利等) 1.0%以下 (たれ以外 (参利等) 1.0%以下 (たれ、ナラ・リ作用を 会ける場合は、50%以下 (ただし、ナラ・リカリスティック (大だし、ナラ・リカリスティック) 20%以下 (ただし、ナラ・リカリスティック) 20%以下 (ただし、ナラ・リカリスティック) 20%以下 (ただし、ナラ・リカリスティック) 40%以下 (ただし、ナラ・リカリスト (参列・大リストラ・リカリスト (本の) 40%以下 (カリストラ・リカリスト (本の) 40%以下 (カリストラ・リカリスト (本の) 40%以下 (カリストラ・リカリスト (本の) 40%以下 (カリストラ・リカリスト (本の) 40%以下 (カリストラ・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・リカリストラー・アメリストラー・ア・カリストラー・ア・カリストラー・ア・カリストラー・ア・カリストラー・ア・ア・カリストラー・ア・カリストラー・ア・ア・カリストラー・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	工事期時前、工事中1回/月以上及び感地が変わった 場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		
ě	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0	する場合	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	【工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細性 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	W
ē	モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0	は 除 く)	モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		T
4	骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	=	0		骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	維骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		1
材その制	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0		硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 租骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び座地が変 わった場合。 砂砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び座地が変わった	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	
4	セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (高炉セメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	場合。 工事開始前、工事中I回/月以上		0		セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	場合。 工事開始前、工事中1回/月以上		
	ポルトランドセメ ントの化学分析	110 0 5000		工事開始前、工事中1回/月以上		0		ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		
200 EE		上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	配満物質の量:2g/以下 溶解性蒸発機関物の量:1g/以下 地化物イオン量:200pm以下 セメントの凝結時間の差:約発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材約7及び28日で 90%以上		上水道を使用してる場合は紅額に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	0		練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道: 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	k 懸郷物質の量: 2g/1以下 溶解性高差規留物の量: 1g/1以下 塩化物/オン量: 200ppm以下 セメントの量話時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材敵7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び木質が変わった場合。 スラッジ木の濃度は1回/日	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。	*使
		回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材約7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	っその原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	O 次項に締く			回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの軽結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	 その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規則 に適合するものとする。 	EVE .

1 3	試験				ō.	
ì	租骨材の表面水率 試験	JIS A 1125	設計図書による	1回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用す る。	
その他	度		水:±196以内 セメント:±196以内 情材:±396以内 混和材:±296以内 (高炉スラグ機約末の場合は±196以内) 混和剤:±396以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録 により確認を行う。 ・ 急結剤は適用外	(
	ミキサの練混 が性 能試験	バッチミキサの場合: JIS A 8119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	ンクリートの建設で置 ンクリート中のモルクル単位等積更量 この5年以下 この5年以下 に関連を発達からの差・7.5年以下 医機関度や可能からの差・7.5年以下 空馬里平均値からの差・7.5年以下 でフェッフキットをは スランプキッ開始からの差・1.5年以下 コンクリート中のモルタル単位等積更量 この5年以下 コンリート中のモルタル単位等積更量 コンクリート中のモルタル単位等積更量 コンリート中の甲位組含料量の差・5年以下	工事開始教及び工事中1回/年以上。	・小学規工形を「工作当当りの完使用書が込む法拠の 神会は「工管側のはの数象、またはディーミウス トコンクリート工場の高原証明等のかとすること ※小学規工事とは、以下の工程を除く工程とする。 ※小学規工事とは、以下の工程を除く工程とする。 像力・規工事とは、以下の工程を除く工程とする。 東上部工「係」技能、高額等)、機関工「後を1回以 、	C
		連続ミキサの場合: 土木学会規準JSCE-I 502	コンクリート中のモルタル単位容積質量差: 0.8%以下 コンクリート中の単位相骨材量の差:5%以 下 圧縮強度差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランプ差:3m以下	工事開始前及び工事中1回/年以上。		(
5 その 他		「コンクリートの耐久性向上」	原则().3元/63以下	コンクリートの打取が年前と手似にまたがる場合 は、年前に「国コンリート打撃が行い、その談 競技事が現代的整要の原幹機のリフは下の場合は、年 競技事が発生されていまった。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	・小外規工指於では工程当りの配便用量が60.5未扱の 自合は11注目回しの試験。またはディーミクス トコンクリート工場の最質製師書のかとすること トコンクリート工場の最質製師書のかとすること のは、500七~とには回の試験を行う。 ・青材に国の試験を行う、15年5002~015、15年	
					※小規模工事上は、以下の工理を除く工程とする。 (機合、機能、社務(場所計算机、非論是建議を持ち、 は、機能、技能、協議の工程を構造を持ち、 上)、議策工、機関、無管、技術、という、 は、対し、は、 は関係、対象、という、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
	スランプ試験 (モルタル除く)	JES A 1101	スランプSom以上8cm末満 : 許容差±1. Som スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2. Som	- 荷卸し時 個か/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~15082とに「個、及び荷卸し時に品質変化が認 50~5れた時。	・小規模工理※でに工程当りの散使用量が50m3未満の 場合は11世間回以上の規模、またはレディーミウス トコングリートは側の金質短筒等のかとずること ができる。1工程当たりの設併用量が50mG以上の場合 は、50m3ごとに対向の試験を行う。 ※小規模工事については、塩化物総量規制の項目を 参照	
2	・コンクリートの圧 ・総強度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	3本の強度の平均値が材令28日で設計強度以上とする。	校付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事 で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹 付付、現場で28日差生し、直径50mのコアーを切取 リキャッピングを行う。原則として1回に3本とす る。	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m3未満の 場合は1工費1回以上の試験、またはレディーミウス トコングリートは海の最短影響のみとすること ができる。1工種当たりの設併用量が50m3以上の場合 は、50m3ごと11回の試験を行う。 ※小規模工事については、塩化物総量規制の項目を 参照	
その他		JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・弾却し時 1回/日または構造物の重要使と工事の規模に応じて 20~15083ごとに1回、及び桝却し時に品質変化が認 められた時。	・小規模工種※で1工種当りの鉛使用量が50m3未満の場合は1工種回以上の試験、またはレディーミウス トコンクリート工場の品質は明書等のみとすること ができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合 は、50m3ごとに1回の試験を行う。	
					※小規模工事については、塩化物総量規制の項目を 参照	

吹付工	製造	坐你	細骨材の表面水率 試験	JIS A 1111	設計図書による	2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用す る。	
	Ŷ							
	/ラント)		租骨材の表面水率 試験	JIS A 1125	設計図書による	1回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	
		その他	計量設備の計量精 度		末: ±1%以内 セメント: ±1%以内 骨材: ±3%以内 混和材: ±2%以内 (高炉スラグ報粉末の場合は±1%以内) 混和剤: ±3%以内	工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合、印字記録 により確認を行う。 ・ 急結剤は適用外	0
			ミキサの練混ぜ性 能試験	ベッチミキサの場合: JIS A 119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練型で量 と学年第の場合 コンクリート中のモルクル単位市賃賃業 コンクリート中の単位組骨材量の差:5% 以下 医機能でお嬢からの差:15%以下 交換電子可能からの差:15%以下 交換電子可能からの差:15%以下 交換電子の差:15%以下 の表に下 コンクリート中のモルタル単位着賃賃業 こ:5%以下 エンクリート中のモルタル単位着賃賃業 スピークリート中の単位を提供を必要に対しています。15%以下	工事開始前及び工事中1回/学以上	・小型模型指令では関当りの発便用量が必必に対応 時会社工程側以下が開業。それたドライーモラス トコンクリート上端の高質部内等のみとすること か小型模工手とは、以下の工程を除て程とする。 か小型模工手とは、以下の工程を除て程とする。 を上述工工工工、が低、高額が、調修工工(係ともから 単上が工工工、が低、高額が、調修工工(係ともから 出上が工工工、が低、高額が、調修工工(係ともから 出上が工工工、が低、高額が、制度工 は、12 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0
				502	8%以下 コンクリート中の単位租骨材量の差:5%以 圧縮独皮差:7.5%以下 空気量差:1%以下 スランブ差:3cm以下	工事開始前及び工事中 1 回/年以上。		0
	施工	その他	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	66-5800_334c/as327_F	コンフリートの打選が平海と平板にまたがる場合 は、平前に1回コンタート打選が出てい、その映 機能者が近代的機能のが見解他のプロストの場合は、年 機能者が近代的機能のの場解他のプロストの場合は、年 機能を必要がある。 が表現がある。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 がる。 が	・小型様工程学で工工報当りの報便用能分配公共的の 会会は工程側以下の影響、またはケイ・モクス トコンクラート上端の高度設計等等のかとすること トコンクラート上端の高度設計等等のかとすること トコンクラート上端の高度設計等等のかとすること ・方名は、50mよこをLinの交換を行う。 ・方名作者が最終では、「36年のの遺化物イー ・方名作者が最終では、「36年のの遺化物イー ・方名作者が最終では、「36年のの遺化物イー ・方名作者が最終でしている。のからは、 ・月に表現等を有さない無路構造物の場合社各略で さか、成職、広報(66年に、井田基保等)、構 を出工、信件、成業、機等等、海球、大阪 (76年2.0。 上上、「新国工、機中、機能、水門、大阪 (76年2.0。 上上、「五工、機工、機等)、海球 (76年2.0。 上上、11年2.0。 によっている。11年3.0。 ・大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、大田、上田、上田、上田、一田、大田、大田、大田、大田、大田、上田、上田、上田、上田、上田、上田、上田、田、田、田、	
			スランプ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランプSem以上18cm以下: 許容差土1. Scm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差土2. Scm	・ 改郎に歩 1周/日 <mark>以上、</mark> 株造物の重要度と工事の規模に応じ て20-150adごとに1回、及び荷加し時に品質変化が 認められた時。	・小東県工権をでは重当の少規則権が加工場が お合け工権国以下が乗りまたは大学イモシス トコンクリート工場の最高設局等かみとすること たてきる。工程書のの機能構造がある以上の場合 は、5003ことに同の対象を行う。 なも規模工事については、塩化物能量規劃の項目を 参照	
		必須	コンクリートの圧 縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	3本の極度の平均値が収令28日で設計極度以上とする。	灰付1日につき1回行う。 なお、テストピースは規制:配置された型枠に工事 で使用するのと同じコンタリート (モルタル) を吹 付け、現場で記載率と、直径5回のコアーを切取 リキャッピングを行う。原則として1回に3本とす 5。	・小規模工事については、塩化物能量規制の項目を をかり、 をおり、 をは、 をは、 であり、 であり、 であり、 であり、 であり、 であり、 であり、 であり、 であり、 には、 であり、 には、 であり、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	
		その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.0% (許容差)	・ 育知し時 1回(日以上、精造物の重要度と工事の規模に応じ で20~130m3ごとに1回。及び育和し時に品質変化が 認められた時。	・小規模工程会で12項目のの総使用金が88mを指数の 場合は11項目別との製像。またレディーを2ク、 トコンタリート工場の最質証明書等のみとすること ができる。11項目を15の総使用量が90m以上の場合 は、50mごどに同の対験を行う。 参小規模工事については、塩化物給量規制の項目を 参照	
			コアによる強度試 験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		

改定内容

			現	行							改定	内容		
_							no 25 Miles I te	I o les a		Tro dell'action	In-	SHANG-CINAL TWELL - VALUE -		1
20 現場吹 付法枠工	材 必 アルカリ骨材反応 料 須 対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、 国港環第35号、国空建第78号)」	同左	青材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0	20 現場吹 材 付法枠工 料	必 アルカ須 応抑制	対策	「アルカリ骨材反応抑 制対策について」(平 成14年7月31日 け国官技第112号、 国港環第35号、国 建第78号)」	0 ÅE	背材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0
	そ 骨材のふるい分け の 試験 他	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		0		そ 骨材の 試験 他	ふるい分け	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		0
	All the contract to a contract	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶較密度 (2.5以上 維管材の成本率 : 3.5%以下 報管材の成本率 : 3.5%以下 研算材の成本率 : 3.5%以下 を は一ついては 機変を参照) がルスラグ総管材、個スラグ総管材の規格値 については 機変を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。	JIS A 5005 (22/91-)用辞石及び辞録) JIS A 5011-1 (22/91-)用辞石及び辞録・電 1 節: 高沢スケ 音句 1 (2.0/91-)用スラグ青材・電 2 節: フェーンケルスラグ青材・電 2 節: フェーンケルスラグ青材・ 1 (3.5 A 5011-3 (22/91-)用スラグ青材・電 5 節: 別スラ 7 青材 3 節: 別スラ 1 3 K 5 0311-3 (22/91-)用スラグ青材・薬 4 節: 電気炉 耐化スラグ青材 3 1 第 5 4 502 (22/91-)用再生青材的	0		※) 骨材の 水率試	密度及び吸験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	歴乾密度:2.5以上 総管材の成本率:3.5%以下 服育材の成本等:3.5%以下 服育材の成本。 1.5%以下 大型のでは、 カースタグ報件は、 カースタグ格性が、 カースタグ格が、 カースタグを	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。	JIS A 5005 (27円・)用枠石及び砂砂) JIS A 8011-1 (27円・)用スク学材・第1部:高原 27 を 10円・27 を 10円・ 27 を 10円・27 を 10円・ 27 を 27 を	FX = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
	骨材の微粒分量試 験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	服骨材 彩石 3,0%以下(ただし、輸粉定業標率 50%以上の場合は5,0%以下 人の今風存 5,0%以下 それ以外(砂利等)1,0%以下 静砂 9,0%以下(ただし、すりへり作用を 受ける場合は5,0%以下) の861年、サット等を含まない場合,7 7,0%(ただし、すりへり相下を受ける場合 は5,0%以下) メリンド押を受ける場合 は5,0%以下) スーラン海南名 7,0%以下(ただし、すり スーラン海南名 7,0%以下(ただし、すり	工事期始新、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		0	次項に続く 20 現場穴 材 付法枠工 料	その他(JISマーク	微粒分量試	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	服骨材 3.0%以下(ただし、粒形定実績率 分か以上の場合はよの知り下 クライ製料 3.0%以下 それ以外(砂利等)1.0%以下 維骨材 9.0%以下(ただし、ナック専用を 受ける場合は3.0%以下) 砂砂 (私土、シルト等を含まな・場合) 7.0%(ただし、ナック・リアルーのサイル・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・リア・シール・シール・リア・シール・シール・リア・シール・シール・シール・リア・シール・シール・シール・シール・シール・シール・シー・シール・シー・シー・シール・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・シー・	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。 (山谷の場合は、工事中1回/選以上)	酸化スラグ発料) JIS A 5021 (マッケー)用再生費材10	0
	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	り作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0以下(ただし、すり り作用を受ける場合3.0%以下) 標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「右機不純物を含む総骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0		表示された			は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし、すりへ り作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0以下 (ただし、すり へり作用を受ける場合3.0%以下)			
	モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0		ディー						
	骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び座地が変わった 場合。	:	0		スト	機不純物試	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	()
	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 特砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0		ý _	ルの圧縮強 る砂の試験 の粘土塊量	JIS A 1142 JIS A 1137	圧縮強度の90%以上 細骨材:1.0%以下 細骨材・0.25%以下	映料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。 中本開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった		0
	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上 事開始前、工事中1回/月以上		0		を使	トリウムに 材の安定性	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前: 工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砂砂・砂石:	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0
	ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0		場合は除く)	トの物理試	JIS R 5201	JIS R 5210 (ボルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5212 (フライアッシュセメント)	等が、947: 工事開始前、工事中1回/年以上及び密地が変わった 場合。 工事開始前、工事中1回/月以上		0
	練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	無素物質の量: 2g/ 以下 溶解性蒸発残留物の量: 1g/ 以下 塩化物イオン量: 200gの以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を 使用していることを示す資料による確認を行う。	0		ボルトントの	ランドセメ 化学分析	JIS R 5202	IIS R 5214 (エコセメント) IIS R 5210 (ポルトランドセメント) IIS R 5211 (高炉セメント) IIS R 5212 (シリカセメント) IIS R 5213 (フライアッシュセメント) IIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
		回収水の場合: JIS A 5308附属書C	地化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	0		練混ぜ験	水の水質試	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	軽濁物質の量:2g/1以下 溶解性蒸発性留物の量:1g/1以下 堪化物イオン量:200ppp以下 セメントの最終時間の差:始発は30分以内、 終結社60分以内 モルタルの圧縮強度比:材飾7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道 使用していることを示す資料による確認を行う。	0
										回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結注60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材飾7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。	・その原木は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	定 〇

		玛	見行						改定	内容	
施 そ スランブ試験 エ の (モルタル像く)	JIS A 1101	スランプSom以上Rom未満:許容差±1.5cm スランプSom以上Rom以下:許容差±2.5cm		・小規模工程※でに直接3りの配接用量が50㎡未満の 場合は12世間回止の試験。またはレディモラフ、 トコンワット・工場の企業管理等のかとすること ができる。12世間かどの配金機能量が50%以上の場合 、50%にプローロの対象を行う。 8小規模工事とは、以下の工程を終く工程とする。 「機能・機能・が使用され、計算基準的・機 に関金、機能・が使用され、計算基準的・機 に対し、計算、が表現を対象を対象を対象 したというに対象を対象を対象を対象を対象 により、指揮工程が乗ります。		施工の他	スランプ試験 p (モルタル除く)	JIS A 1101	ステンプScn以上Scn以直、許容差土1. Scn ステンプScn以上IScn以下:許容差土2. Scn	・荷加上時 同/日上、構造物の重要度と工事の規模に応じて 20〜186miごとに1 回、及び発動上時に品質変化が認 かられた時。	・小規模工程会で1工程50の設使用量が50%末清の 場合は1工程50以外機、またはレディーミクス トンスクリートはの数度が書きから上げること がさきる。1工程信さりが成性量が50%以上が場合 1、60%ことは10%であります。 分小規模工事とは、以下の工程を除工程とする。 (情か、個別、配置、例刊が10%を終工程とする。 (情か、個別、配置、例刊が10%を終工程とする。 (日本、個別、配置、例刊が10%を終工程とする。 (日本、個別、配置、例刊、格置、外別、本部 以上)、両定工。規門、報管、共門、本路(7年紀~6 以上) 関係・ダルスの職、トンネル、権助、その他 これのに指する工程及び特定仕様をで指定された工程。
施 必 コンクリートの圧 エ 須 総強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	設計図書による	回参本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事 で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹 付け、現場で7日間及1223日間放置後、65mのコ アーを切り取りませゃッピングを行う。1回に6億(σ7 …3億、σ28-3億、)とする。	・参考権: 180/m2以上(林を28日) ・小規模工種※で12種当りの監使用型が50㎡未満の 場合は工種側に比り試験。またはレディーミクス トコングリート工場の品度証明書等のみとすること ができる、12種書とりの設使用量が500%以上の場合 は、5003ことに「個の試験を行う。 ※小規模工事については、スランブ試験の項目を参		i2 31	コンクリートの圧 経強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	設計図書による	1回6 本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同こンクリート (モルタル) を吹 付け、現場で1日間及び28日間設置後、65mのコ アーを切り取りキャッピングを行う。1回に6費(67 …3整、028…3量、) とする。	・参考値:18V/m2以上(付今28日) ・小規模工程をで工能多りの接用量が50%末満の 場合は工程国以外機、またはレディーミクス トコンクリート工場の最製研整等のみとすること がさる。1工程等との建模用量が50%以上の場合 は、50%3ごとに回の契機を行う。 参小規模工事については、スランプ製験の項目を参
も、塩化物料重規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3kg/n3以下	コンクリートの打弦が午前と午後にまたがる場合 は、年前に 図コンクリート打容前に行い、その版 機能表が現代を開始の影響機のアメアの場合は、午 の場合が成立を開始のアメアルの場合は、定 回数は3回)試験の利定は3回の測定量の平均値。	・小規模工程※でに直接もりの総技用量が50mで来週の 場合は12世間回はよの試験。またはレディーミクス リーングリート工場の必要指数で乗りからしまった。 は、50021と10番のはまります。 は、50021と10番の対象を行う。 できれて海やを実力であるは、1000年にありました。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象を行う。 第401年の対象の対象の対象の対象の対象の対象の対象の対象の対象に対象の対象に対象の対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を対象の対象を行る。	<u>次項に継ぐ</u> 20 現場吹 付法枠工	施えるの他	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原的0.3kg/a3以下	コンクリートの打弦が年前と午後にまたがる場合 は、午前に1回コンクリート打容前に行い、その長 機能基が進化物機の影機能の22年の場合は、午 の場合は、2年の場合は、近 回数は3回)其機の何定は3回の周定盤の平均能。	・小規模工格空で1工権当りの接換用量が50%末清の 場合は工程期回比りが接触。またはレディーミクス トコングリートは他の高度設備等のから上げること トコングリートは他の高度設備等のからないよから合っ によっなことには同かが振り行うかっていた。 によっなことには同かが振り行うかっていた。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
空矢量湖定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (許容差)		・・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の 場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクス トコンリート工場の高度証明書等のみとすること ができる、1工程部の当時が500以上の場合 は、5000ことに1回の試験を行う。 ※の機模工事については、スランプ試験の項目を参 無			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.55 (許容差)	・奇部し時 1回、日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ て20~150m3ことに1回、及び荷卸し時に品質変化が 認められた時。	・小規模工格会で1工権当りの接使用能が5m2末満の 場合は1工程回以上の映像、またはレディーミクス トコンクリート工場の高度設備等等のみとすること ができる。1工権等2の関係関係が5m3以上の場合 は、5m3ごとに1回の契約を行う。 参加選集工事については、スランプ映象の項目を参 回り、100円では、100
ロックボルトの引 抜き試験	参考資料「ロックボル トの引抜試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。				ロックボルトの引 抜き試験	参考資料「ロックボル トの引抜試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。	設計図書による。	
コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。				コアによる強度試 験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。	

			現	!行								改定	'内容		
26 コンク 材 g リートダム 料 別	アルカリ骨材反応 対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年7月31日付け国官技第112号、国港環第35号、国空建第78号)」	同左	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0	26 コンク リートダム	7 材 é 料 刻 I S	☆ アルカリシリカ 前 応抑制対策	反 「アルカリ骨材 制対策について 成14年7月3 け国官技第11 国港環第35号 建第78号)」	て」(平 3 1日付 1 2号、 号、国空	河 左	育材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0
च a d		JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021		工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。	JIS A 5011-2 (2)かリー州スラク常称-第2部: フェロ ニッケルスラグ青材) JIS A 5011-3 (2)かリー州スラグ青材-第3部: 網スラ グ青材) JIS A 5011-4 (2)かリー州スラグ青材-第4部:電気炉 酸化スラグ青材) JIS A 5021 (2)かリー州再生青材用)			マーク表示されたレディー	告 骨材の密度及U の 水率試験 直	級 JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~ JIS A 5021	競場方 ∼4	8板密度:2.5以上 水本: (2013年制定) コンクリート標準示 書ダムコンクリート欄による。	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 500S (22)村-川県各石及び除砂) JIS A 5011-1 (22)村-川スラク市材・第 1 部: 高戸 フータイト フータースラク市材 JIS A 501-3 (22)十-川スラク市材・第 2 部: フェ ニッケルスラグ市材 JIS A 501-3 (22)十-川スラグ市材・第 3 部: 網ス グ市材) JIS A 501-4 (22)十-川スラグ中材・第 4 部: 電気 脱位スラブ市材	: E O
	骨材のふるい分け 試験			工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。	5	0		ーミクス	骨材のふるい分 試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5021	85	受計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。	9	0
	セメントの物理試験		JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0		トコンクリー	セメントの物理 験	区 JIS R 5201	T .	IS R 5210 (ポルトランドセメント) IS R 5211 (高炉セメント) IS R 5212 (シリカセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0
	ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0		トを使用する。	ポルトランドセ ントの化学分析	≯ JIS R 5202		15 R 5211 (回炉レンドリ) IS R 5212 (フライアッシュセメント) IS R 5214 (エコセメント) IS R 5210 (ボルトランドセメント) IS R 5211 (高炉セメント) IS R 5212 (シリカセメント) IS R 5213 (フライアッシュセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		
	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	工事開始前、工事中 1 回/年以上及び産地が変わった 場合。	と・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0		物合は除	砂の有機不純物	JIS A 1105	J:	IS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	 濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細作材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。 	#
	モルタルの圧縮強 度による砂の試験			試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0		2	映 モルタルの圧縮 度による砂の試	強 JIS A 1142		(90%以上の場合は使用できる。 E縮強度の90%以上	場合。 	材のモルダル仕縮強度による試験方法」による。	
	骨材の微粒分量試 験		細骨料: 7,0%以下(ただし、すりへ)作用を受ける場合: 7,0%以下(ただし、すりへ)作用を受ける場合: 9,0%の場合、、機能分量試験で失われるものが帰石粉であって、粘土、シルトなどを含まないときには9,0%以下,ただし、同様の場合で、すりへり作用を受ける場合は5,0%以下。			0			骨材の微粒分量		経	旧骨材:1.0%以下(ただし、砕石の場合、 検定分量地類で求われるものが砕石粉のとき 注は、3.0%場合は1.5%以下) 6%以下(ただし、すりへり作用を受ける 6%3.0%以下、 条砕の場合、、機能分量減額で失われるも が発布部であった。私土、シルトなどを含 たないときには2.0%以下、ただし、同様の 6分で、すりつり作用を受ける場合は50%	工事開始前、工事中1回/月以上及び感地が変わった (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	-	0
	租骨材中の軟石量 試験			工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。		0			租骨材中の軟石	雅 IIS A 1126	P	場合で、すりへり作用を受ける場合は5.0% 以下。 次石量: 5%以下	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった	2	
	骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。	5	0			試験 骨材中の粘土塊	量 JIS A 1137	ä	理骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	場合。 工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった	2	0
	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122 JIS A 5005	組骨材:10%以下 租骨材:12%以下	砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変 わった場合。 砂砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 環合:	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0			の試験 硫酸ナトリウム よる骨材の安定 財験			相骨材: 0.25%以下 即骨材: 10%以下 用骨材: 12%以下	場合。 砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0
	粗骨材のすりへり 試験	JIS A 1121		明日。 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。		0			和骨材のすりへ	-9 JIS A 1121		05GLT	わった場合。 砕砂、砕石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。 工事開始前、工事中1回/年以上及び廃地が変わった		0
	練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	竪溝物質の量: 2ε/1以下 溶解性高発残留物の量: 1ε/1以下 塩化物イナ型量: 200pm以下 セメントの起始時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	工事開始的及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	 上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを余ず資料による確認を行う。 	0			試験	L 木道水及び上 以外の水の場合 JIS A 5308附属	上水道水 慰	表演物質の量:2g/1以下 対解性高発技留物の量:1g/1以下 は化物イオン量:200ppm以下 よントの最結時間の差:5時代は30分以内、	場合。	 上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。 	
		回収水の場合: JIS A 5308附属書C		工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	 ・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。 						89 FE 90	8結は60分以内 Eルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 0%以上			0
			終期は500万以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上			0				回収水の場合: JIS A 5308附属	生 高書C セ 終 モ 90	並化物イオン量:200ppm以下 とメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 たルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 0%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	 ・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。 	Е
		回収水の場合: JIS A 5300時属値C	終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で	江事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	・その原水は土水道水以び上水道水以がの水の廃定 に適合するものとする。	0				到花水中等分 118 A SSOS附属	90 ### ### ###	たタルの圧縮機度比、材飾及び28日で 低化物イギン量、200gma以下 メントの磁体部間の影、始後は30分以内、 結結は30分以内 結結は30分以内 に配換度比:材飾7及び28日で の以以上 に	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	・その原本は上水道水及び上水道水以外の水の貝 に適合するものとする。	[7

			1行					改定	内容	
施 必 進化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原则0.342/63以下	コンタリートも打扱が作品と下級にまたれる業と、 ・ を禁に、国内である。 は、一般に、国内では、下級のでは、そのが、 は結婚が後に始終2の理解的リスはいな場合は、 体の試験を機能することができる。 には他の対象を機能することができる。 の選択3回とする)試験の何定は3回の測定機の平均 機・	・小原祖工課次で11年第19の密使用量が5000余乗通の ・小原祖工課次で11年第19の密使用量が5000余乗通の ・コンソート工場の高度証明書版のみとすること ができる。11年第10回数据を行う。 ・おりまる。11年第10回数据を行う。 ・おりは一部である。12年80回数据を行う。 ・おりは一部である。12年80回数据を行う。 ・おりは一部である。12年9日の3000年の1970年の1	26 コンク 施 リートダム エ !	必 進化物給重規制 質	「コンクリートの耐久性向上」	展別の.3kg/a322下	コングリートの打弦が中部と中級にまたがら集か 、中部に、日本で、一般では、一般では、一般では、 単語が、場合を対していまった。 単語が、場合を対していまった。 は、 のの影響を指することができる。 に、 は、 の場合は新したする) 試験の利定は知じる関連を関する。 は、 の場合は新したする) は、 は、 の場合は新した。 は、 の場合は新した。 は、 の場合は新した。 は、 の場合は新した。 は、 の場合は の場合は の場合は のがまた。 の場合は のがまた。 のがまたる。 のがまた。 のがまた。 のがまたる。 のがまたる。 のがまたる。 のがまた。 のがな。 のがまた。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 のがな。 の	・小規模工程をでして発言のり、他使用量が50m(大) ・・小規模工程をして1998年、9月 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
举位水量测定	「レディをタストコン クリートの品質機像に ついて」	1) 新定した単位水量が、配合物計と15-0-00 の職能にある場合にその非常配工してという。 の職能にある場合にその非常配工してという。 の職性にある場合にその実施工工でという。 の職性にある場合に大変変勢が、 の間の配質能と、エン別連者に必要を持たした。 との連携等のはコンは打算する。その に、選集等のも単位には、単位水質の関節を 行う。 の記合数計上の地域の効果性を終える場合 は、塩コンを打込まずに、非ち場から、単位 を対象している。 とを提出といる。 は、塩コンを打込まずに、非ち場から、単位 を対象している。 とを提出といる。 は、塩コンを打込まずに、非ち場から、 を指摘してければなるい、その他の全業等 再の設定を行い、配合数計とかが、3回、同じ、 には、10-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-	100㎡/日以上の場合: 2部㎡日(中部18 年年18)、悪悪構造動の場 2部㎡日(中部18 年2 10 0 - 15 0 0 0 2 とに18 8 及び類別し村に品質を化び認められたときとし制定 圏数は多い方を採用する。	示方配合の単位水景の上限機は、開き材の最大寸法 が2.0 mm - 2.5 mmの場合は 1.7 m k _B / m3、4 0 mmの場合は 1.9 3 k _B / m3を基本とする。		単位水量測定	レディーミクストコント クリー、単位大金蘭社 製造(金)(「代表16年3 月8日 事務連集)」	□ 割定した単位水量が、配合部計・15kg/ai の範囲にある場合はそのまま施工してより、 到度した単位を最近、配合設計・12kg/ai の単位に乗り返送が、配合設計・12kg/ai の間回を構造し、エーン製造者に必要が、 を受けませい。 を表しているでは、単位水量のは、 を表しているでは、単位水量のは、 は、配合設計・15kg/ai以下で変するまで、 で、選集率のが最近には、単位水量のまで で、実験をのがあるには、単位水量の は、配合型は上では、正は、単位水量を表した。 は、他のでは、上では、一位水量を表した。 は、他のでは、一位水量を表した。 は、他のでは、一位水量を表した。 は、他のでは、大量を表した。 は、他のでは、大量を表した。 は、他のでは、大量を表した。 は、他のでは、大量を表した。 を表して、大量を表した。 は、他のでは、大量を表した。 を表して、大量を表した。 は、他のは、一位、大量を表した。 を表して、大量を表した。 は、他のは、は、他のでは、大量を表した。 は、他のは、は、他のでは、大量を表した。 は、他のは、は、他のでは、大量を表した。 は、他のは、は、他のでは、大量を表した。 は、他のは、は、他のでは、大量を表した。 は、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他のでは、他ので	1002/月以上の場合、 2周/日(存着1周、午後1周)以上、重要構造的 の場合注重要性にむて100~150㎡とに 国、及び脅助上時に品質更化が認められたときとし 関定加度は多い方を採用する。	5.万を合の単位水量の上別様は、用き材の地大 か2 0 mm ~ 2 5 mmの場合は1.7 5 k g / mi の 0 mmの場合は1.6 5 k g / miを基をとする。
スランプ試験	JIS A 1101	スランプSom以上Som未満 : 許容差±1 Som スランプSom以上Som以下 : 許容差±2 Som		・小規模工務※でI工種等りの総使用量が50x3未満の 場合はI工程を以上の記録。またはレディーミウス トコンクリートはの品質設備等のかとすること ができる。I工程場よりの設度用量が50x3以上の場合 は、50x3ごとITの回び試験を行う。 ※小規工事とは、以下の工程を除く工程とする。 (場合・機能・板(場所打断・内部基础等)、機 度上部工作、採販、高模等)、機関工「高さInu以 上)		スランプ試験	JIS A 1101	スランプSma以上Nma末着: 許容差±1.5m スランプSma以上Nma以下: 許容差±2.5m	・労削し時 ・引加/日以上、構造物の重要度と工事の規模の応 じて30~15084ことに1回、及び労働し時に高質変化 が認められた時。	・・ 小規模工権会で11種当りの総使用量が50m3末 場合は11種目前1上の2種、またはレディーさく は12年の場合は12種の場合のなどできる。 に12年のより、11年間の3種を行うでもから上げる。 5、50m2でとは10回の対象を行うでもかり、11年間の対象を行うに 等小規模工事とは、以下の工権を除く工権とする。 (権合、編集、技能、制定対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対象、対
空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)				空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)		(BE)
コンクリートの日報金度試験	JIS A 1108	(a) 日総強度の試験値が、設計基準機度の 80%を1/20以上の経帯で下回らない。 00元を20次の対象がである。 00元を設度の対象が 以上の機帯で下回らない。	「部2ヶ 1.1ブロックリリフトのコンクリート豊50004素減の乗 も1ブロックリリフト曲リ1回の前で行う。なお、1ブ ロックリリフト曲リ1回の前で行う。なお、1ブ ロックリリフト曲リ1回の前で行う。なお、1ブ ロックリフトーカー・単50003以上の場象を整備表と協議とものます。 2.1ブロックリフトコンクリー・単50003以上の場象を整備表とは第一次12003以下のよう。 1ブロックリフトコンクリー・単5003以上の場合で は第一次 1000以上の場合では、1000以上の場合では は第一次 1000以上の場合で行う。 は、178日1日につき7回の方で行う。 は、178日1日につき7回の方で行う。 に乗り回り上の一次の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。 に乗り回り上の一次の一次で行う。	・小規模工程で12種当りの影使用量が50点未進の場合は工程側回上の試験。またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のかとすることができる。		コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	GAIT部施業の経験様が、設計基準機定の 90%を1/2001上の標準で下回らない。 の正確確の影響を、設計基準機変を1/4 以上の標率で下回らない。	1回3ヶ 1 日 2 1 日 2 1 日 3	・小規模工程で1工程目のの指検引度が60m 2回 ・小規模工程で1工程目のの接続、またはシザイーでク コンクリート工場の品質証明書等の分とすること できる。
温度測定(気温・コンクリート)	温度計による。		1回供試体作成時各プロック打込み開始時終了時。			温度測定(気温・ コンクリート)	温度計による。		1回供試体作成時各ブロック打込み開始時終了時。	
そ コンクリートの単 の 位容積質量試験	JIS A 1116	設計図書による	1回2ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。	参考値: 2.3t/m3以上		モ コンクリートの単 の 位容積質量試験	JIS A 1116	設計図書による	1回2ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。	参考值: 2.3t/m3以上
他 コンクリートの別 い分析試験	-	設計図書による。	1回 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。			也 コンクリートの洗 い分析試験	JIS A 1112	設計図書による。	1回 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。	
コンクリートの3 リージング試験		設計図書による。	I回1ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。			コンクリートのブ リージング試験	JIS A 1123	設計図書による。	1回1ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。	
コンクリートの引 張強度試験		設計図書による。	1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。			コンクリートの引 張強度試験	JIS A 1113	設計図書による。	1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。	
コンクリートのe げ強度試験	∄ JIS A 1106	設計図書による。	1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に行う。			コンクリートの曲 げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。	1回3ヶ 当初及び品質に異常が認められる場合に 行う。	

			玗	見行								改定	内容		
27 覆エコ 材 ンクリート 料	必 アルカリ骨材反応 須 対策	「アルカリ骨材反応抑 制対策について」(平	同在	青材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び底性が変わった場合。			27 寝エ= ンクリート	材料	必 アルカ 須 広柳制	リ シリカ 反 対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」 (平 成14年7月31日付	同左	情材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び運港が変わった場合。		
(NATM)		制対策(こついて) 成14年7月31日付 け国官技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」				0	(NATM)	(**)			成14年7月31日付 け国官技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」				0
	そ 骨材のふるい分け の 試験 他	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中 1回/月以上及び産地が変わった 場合。		0			そ 骨材の の 試験 他	ふるい分け	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。		0
	骨材の密度及び吸 水率試験		総数据度、2.5以上 監督材の最大率、3.5%以下 耐量材の最大率、3.5%以下 (分砂・砕石、高炉スラグ着材、フェロニッ ケルスラグ総書材、類スラグ総書材の規格値 (こついては適用を参照)	工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった 場合。	JIS A 5005 (207)・用時を及び時秒) JIS A 5011-1 (207)・用用の分骨材・第1部:高炉2 ケラ 7 青村・第1部:高炉2 ケラ 7 青村・第2部:フェーッケルスラグ青村 32部: 327・ファルスラグ青村 32部: 銀スマグ青村 31路: 4 5011-4 (207)・用スラグ青村 38部: 銀スマリストラグ青村 38部: 銀スマリストラグ青村 38部: 銀スマリストラグ青村 38部: 第2次リストラグ青村 38部: 第2次リストラグ青村 38部: 第2次リストラグ青村 38部: 第2次リストライド 381 (207)・用用ス全青村 181 名 5021 (207)・用用名全青村 181 名 5021 (207)・用用名金青村 181 名 5021 (207) (207)・用用名金青村 181 名 5021 (207) (207)・用用名金青村 181 名 5021 (207) (2				骨材の水率試	密度及び吸 験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶較高度 2.2 5以上 維育材の歌大率 3.3 5%以下 種質材の歌大率 3.5 5%以下 種質材の歌大率 3.5 5%以下 種質材の歌大率 3.5 5%以下 がルスラブ維育材、個スラグ維育材の規格値 については適用を参照)	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5008(ックサー用発在及び発砂) JIS A 5011-(ックサー用スラク青材・第1部:高炉 フォート フェーンテルスラグ青材・第2部:フェー ニッケルスラグ青材・ JIS A 5011-3(ップナー用スラグ青材・第3部:編ス・ プーオリ 別 S A 5011-3(ップナー用スラグ青材・第4部:電気/ 酸化スラグ青材) JIS A 5011-3(ップナー用スラグ青材・第4部:電気/ 酸化スラグ青材) JIS A 5011-3(ップナー用ステーオ材)	: E O
	租骨材のすりへり 試験		辞石 40%以下 砂利 35%以下	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/ 月以上及び産地が変わった場合。		0	次項に統 27 鞭エ= ンクリート (NATM)	材料()」	そ 租骨材 の 試験 他	のすりへり	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下	工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/ 月以上及び底地が変わった場合。		0
材料			それ以外(砂料等) 1.0%以下 輸費材 砂砂 9.0%以下 ただし、すりへり作用を 砂砂 (総土、シルト等を含まない場合) 7.5%の以下、サタへ作用を受ける場合 7.5%の以下、サタへ作用を受ける場合 7.0%以下 (ただし、すりへ サ作用を受ける場合は5.0%以下 それ以外(砂等) 5.0以下(ただし、すり り作用を受ける場合は3.0%以下、サ り作用を受ける場合は3.0%以下			0		- Sマーク表示されたレディーミク	骨材の験	微粒分量試	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	開発するの以下(ただし、転売利定支債率 SSULLの場合は、のが以下) スラグ相合するのが以下 スラグ相合するのが以下 は対するのが以下(ただし、ナカヘリ作用を まがえる場合は、カルト等を含またが場合) スの(ただし、ナラヘリ作用を受ける場合は、 はあのが以下)、のが以下(ただし、ナラヘ ナギルをできなが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合) では、アルト等を含またが場合。 アルト・カートのと同様できたがある。 アルト・カートをできたがある。 アルト・カートをできたが、アルト・カート では、アルト・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カー	正本開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 単条 (山地の場合は、工事中 1 回/週以上)	:	0
	砂の有機不純物試験			工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった 場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0		ストコン	砂の有	幾不純物試	JIS A 1105		工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった	と・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む維例 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	et e
	モルタルの圧縮強 度による砂の試験 骨材中の粘土塊量	JIS A 1142 JIS A 1137	圧縮強度の90%以上 細骨材:1.0%以下 粗骨材:0.25%以下	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。 工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった		0		クリート	験			が90%以上の場合は使用できる。	場合。	材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0
	の試験 硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験			場合。 砂、砂利: 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砂砂・砂石: 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった。 丁事時始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0		使用する場合は;	モルタ 度によ	ルの圧縮強 る砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0
	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (ラリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	機合。 工事開始前、工事中1回/月以上		0		三		の粘土塊量	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	工事開始前、工事中 1 回/月以上及び産地が変わった 場合。	2	0
	ボルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0			武装	トリウムに 材の安定性 トの物理試		冊寺材: 10%以下 租舎材: 12%以下 HS B 5210 (ポルトランドセメント)	級、砂利: 工事開始前:工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砂砂、砕石: 工事開始前: 工事中1回/9ヶ以上及び産地が変わった 報合。 なが、空間が前: 工事中1回/90以上及び産地が変わった 報合。 工事開始前: 工事中1回/月以上	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0
	練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	懸漢物質の量:2g/l以下 溶解性高発殊額物の量:1g/l以下 埋化物イン量:200ppp以下 セメントの凝結時間の差:始免は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材飾7及び28日で 9096以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使 用してることを示す資料による確認を行う。	0			験	アンが理点 ランドセメ 化学分析	JIS R 5201	JIS R 2010 (ポルトランドとと) IIS R 2011 (海炉チント) IIS R 2012 (ソラセメント) IIS R 2012 (ソラセメント) JIS R 2014 (エーセメント)	工事開始前, 工事中1回/月以上 工事開始前, 工事中1回/月以上		0
		回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	その原水は、上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	0						JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)			0
			90%以上						練混ぜ験	水の水質試	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	極高物質の第:2c/1以下 溶解性高差残留物の第:1c/1以下 塩化物イオン量:200pps以下 セメントの最終時間の差:始発は30分以内、 終結は69分以上縮強度比:材節7及U28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わた場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	 上水道を使用してる場合は試験に換え、上水道を使用してることを示す資料による確認を行う。 	(○
											回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結に80分以内 モルケルの圧縮強度比:材飾7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中 1 回/年以上及び水質が変わた場合。	 その原本は、上木道水及び上木道木以外の水の規定 に適合するものとする。 	DE O

				見行			改定内容						
施业	スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2.5cm	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~15083ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認 められた時。		27 獲 ンクリ (NATM)		スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm	 ・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ 220~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が 認められた時。 		
	単位水量測定		1) 瀬皮し上華位水豊が、配合監計 ±10×2/のの制御にある場合はそのまままましてよい。 の制御にある場合はそのまままましてよい。 よっては、10×20×20×20×20×20×20×20×20×20×20×20×20×20	回の「月以上の場合、 三国(二年)第二届、午後1回、重要構造物の場合は基準を構造がある。 会は基準度に応じて100~150成とたけ回。 及び抑制し場合に変化が認められたときとし制定 回数は多い方を採用する。	京方配合の単位水量の上限値は、粗音材の基大寸法が2 Ommの場合は19 5 k g / m3. 4 Ommの場合は19 5 k g / m3を基本とする。			単位水量測定	ドレディーミクストコン クリート単位水量測定 開業(第)(平成6年3 月8日季勤連絡)」	版、新合物理中15年20回以下で変ですると 版、新合物理中15年20回以下で変ですると で 運搬車の3台幣に1回、単位水量の測定を だか、1日度20回以下で変化するとっとと は、空間20回以下で変化するというとは、 20回線性して15年20回の原で変化変形する は、生コンを打込まずに、持ち帰りせ、大量 参加が同限で優別とセニン製造業を を指示したければならない。その後の配合数 を引き、1年20回以下があるというで変態を を引き、1年20回以下があるというできまり、 を担いているというで変化を というできまり、再実験を実施したい場合は2回の 別を無かり、所実験を実施したい場合は2回の 別を無かり、所実験を実施したい場合は2回の 別を無かり、所実験を実施したい場合は2回の がきなり、下実験を実施したい場合は2回の がきなり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したい場合は2回の がなりまたり、下実験を実施したりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまたりまた	190m ³ /日以上の場合: 2回/日 (午前1日, 平後1回) 以上、重要構造物 の場合社重要要は応じて100~150m3ごとに1 回、及び何助し時に高質変化が認められたときとし 制圧回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上原値は、相呼材の最大寸法 が2 0 mm ~ 2 5 mmの場合は1 7 5 kg / m3、4 0 mmの場合は1 6 5 kg / m3を基本とする。	
	コンクリートの 縮強度試験		平均(億)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度とエ事の規模に応じて 20から1503ごとに1回、及び荷削し時に品質変化が 認められた時。なお、テストピースは打設場所で採 取し、1回につき6個(σ7・・3個、σ28・・3個)とす る。				コンクリートの圧 縮強度試験	JIS A 1108	回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の対験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の武験結果は、3個の供試体の試験値の 平均値)	・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ で20から15633ごとに1回、及び荷卸し時に最需変化 が認められた時。なお、テストピースは打設場所で 採取し、1回につき6個(σ 7・・・3個、σ 28・・・3個)と する。		
施业	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3kg/m3以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験検表が低け除総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を名略することができる。(1試験の測定画数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均機。	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イ オン含有率試験方法」(JSCE-C502-2013,503-2007) または設計図書の規定により行う。			塩化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3㎏/±3以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合 は、午前は1回コンリート打設師に行い、その試 験結果が塩化物時量の規制値の1/2以下の場合は、午 後の試験を省略することができる。(1試験の測定 回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平 均値。	 ・青材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イ オン含有率試験方法」(JSUE-US02-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。 	
	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~15082ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認 められた時。				空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	土1.5% (許容差)	・資卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が 認められた時。		
₹	コアによる強度 験	M JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			7 0	コアによる強度試 験	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。		
10	い分析試験	洗 JIS A 1112	設計図書による。	1回 品質に異常が認められた場合に行う。				コンクリートの洗 い分析試験	JIS A 1112	設計図書による。	1回 品質に異常が認められた場合に行う。		
施工後試験	ひびわれ調査	スケールによる測定	O. 2mn	本数 総延長 最大ひび割れ幅等			施工後試	ひびわれ調査	スケールによる測定	0. 2mm	本数 総延長 最大ひび割れ幅等	ひび耐れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する。	
ACK.	テストハンマー よる強度推定調	在		材節28日~91日の間に試験を行う。	合、もしくは1カ所の強度が設計強度の85%下回った場合は、コアによる強度試験を行う。 工府等により、基準期間内に開査を行えない場合は 監督職員と協議するものとする。		*	テストハンマーに よる強度推定調査	JSCE-G 504-2013	設計基準強度		再調査の平均強度が、所定の独度が得られない場合、もしくは1カ前の強度が設計機度の85%下回った場合は、コドによる機度執動を行う。 工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は 監管職員と協議するものとする。	
₹ ø.	・コアによる強度 験 !	St JIS A 1107	設計基準強度	所定の強度が得られない箇所付近において、原位置 のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際 しては、設置された鉄筋を頻解させないよう十分な 検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない 増合、もしくは1カ所の強度が設計強度の55を下 回った場合は、監督職員と協議するものとする。		e de la companya de l	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度	所定の強度が得られない箇所付近において、原位置 のコアを採取。	コア採取位置、供談体の抜き取り寸法等の決定に原 しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な 検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない 増合、もしくは1カ所の強度が設計強度のSSSを下 回った場合は、監管報員と協議するものとする。	

			琈	見行			改定内容								
28 吹付け 材 コンクリー ト (NATM)	必 アルカリ骨材反応 須 対策	「アルカリ青材反応抑制対策について」(中 制対策について」(日 は14年7月31日付け国官技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」	同左	青材試験を行う場合は、工事間始前、工事中1回/ 6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		0	28 吹付け コンクリー ト (NATM)	材必料額	アルカリシ <mark>リカ</mark> 反 応 <mark>抑制</mark> 対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平 成14年7月31日付 け国官技第112号、 国港環第35号、国空 建第78号)」	同左	情材契集を行う場合は、工事開始前、工事中1回/ Gヶ月以上及び鑑地が変わった場合。	0		
	そ 骨材のふるい分け 試験 他		設計図書による。	棚骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1 回。 ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があ るごとに1回。				その他 ()」	骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102	設計図書による。	総管材は経取箇所または、高質の変更があるごとに1 例。 ただし、優エコンクリートと同一材料が場合は省略 できる。 観音材は経取箇所または、高質の変更があ らごとに3回。			
	骨材の単位容積質 量試験	JIS A 1104	設計図書による。	細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。租骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。		0		Sマーク表示さ	骨材の単位容積質 量試験	JIS A 1104	設計図書による。	勝骨材は採款箇所または、品質の変更があるごとに (風) ただし、寝エコンクリートと同一材料の場合は落略 できる。観音材は採取箇所または、品質の変更があ るごとに同。	0		
	骨材の密度及び吸 水率試験		絶乾密度:2.5以上 細骨材の吸水率:3.5%以下 粗骨材の吸水率:3.0%以下	細骨材は探取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。組骨材は探取箇所または、品質の変更があ るごとに1回。		0		れたレディーミク	骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	絶乾密度: 2.5以上 細骨材の吸水率: 3.5%以下 粗骨材の吸水率: 3.0%以下	報告材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1 ただし、魔エコンクリートと同一材料の場合は定路 できる、粗等材は採取箇所または、品質の変更があ らごとに回。	0		
	青材の微粒分量試験	JIS A 5005 JIS A 5308	報告報 50%以下 (ただし、粉粉定実施率 50%以上 (ただし、粉粉を実施率 50%以上 (からは下) (からはた) (からは下) (から	編券材は採取箇所または、品質の変更があることに「国」。 したに、選エコンフリートと同一材料の場合は希略 できる。機等材は核数箇所または、品質の変更があ もことに「個」		0		>ストコンクリートを使用する場合は除く)	育材の微粒分量試験 験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	田舎村 新名 3.0%以下(ただし、秘密定実績率 50%以上の場合社会、0%以下) は、100%以下 1.0%以下 明 明寺村 前寺村 1.0%以下 1.0%以下 明 前寺村 1.0%以下 1.0%	部寄付計録を監察された。品質の変更があることに「 思えたに、魔にコングリートと同一材料が場合は名略 できる。他情材は解釈選所または、血質の変更があ らこことに説。	0		
	砂の有機不純物試 験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	機動骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、種エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。報骨材は採取箇所または、品質の変更があ るごとに1回。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨 材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	0			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度 が90%以上の場合は使用できる。	維骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに」・濃い場合は、JIS A 1142「有機不締物を含 切。 ただし、模エコンクリートと同一材料の場合は右路 できる、租幣材は採取箇所または、品質の変更があ るごとに同。	む細骨 る。		
	モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。		0			モルタルの圧縮強 度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の 色より濃い場合。	0		
	骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	組骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	制骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1 回。 ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。租骨材は採取箇所または、品質の変更があ るごとに1回。		0	次項に続く 28 吹付け コンクリー ト (NATH)	材その他(※	骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 租骨材: 0.25%以下	総骨材は採取値所または、品質の変更があるごとに1 回。 ただし、優エコンクリートと同一材料の場合は省略 できる。組骨材は採取値所または、品質の変更があ るごとに同。	0		
	硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122	組骨材: 10%以下 租骨材: 12%以下	機骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆エコンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があることに1回。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	0			硫酸ナトリウムに よる骨材の安定性 試験	JIS A 1122	細骨材: 10%以下 租骨材: 12%以下	総骨材は採取値所または、品質の変更があるごとに1 薬布地で凍結のおそれのある地点に適用する 回。 ただし、優エコンクリートと同一材料の場合は名略 できる。組骨材は採取値所または、品質の変更があ るごとに同。	,		
	租骨材の粒形判定 実績率試験	JIS A 5005	55%以上	租骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1 回。		0			租骨材の粒形判定 実績率試験	JIS A 5005	55%CLE	租骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1 回。	0		
	セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0			セメントの物理試 験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上	0		
	ポルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上		0			ボルトランドセメ ントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	工事開始前、工事中1回/月以上	0		
	練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量: 2g/l以下 溶解性蒸発短物の量: 1g/l以下 進化物イン量: 200ppp以下 セメントの凝結時間の差: 始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中 1 回 / 年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を 使用していることを示す資料による確認を行う。	0			練混ぜ水の水質試 験	上水道水及び上水道水 以外の水の場合: JIS A 5308附属書C	懸渦物質の量:2g/1以下 溶解性源発現留物の量:1g/1以下 塩化物イン量:300pmは以下 セメントの最結時間の差:始発は30分以内、 終結160分以内 モルタルの圧縮強度比:射動7及U28日で 90%以上	工事制能能な工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。 心場合。 スラッジ水の濃度は1回/日	水道を		
		回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量:200ppm以下 セメントの凝結時間の差:始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比:材齢7及び28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定 に適合するものとする。	0				回収水の場合: JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量: 200ppm以下 セメントの最結時間の差: 始発は30分以内、 終結は50分以内 モルタルの圧縮強度比: 材齢7及U/28日で 90%以上	工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わっ た場合。 に適合するものとする。	の規定		

				現				改定内容							
施工:	必 塩化	:物総量規制	「コンクリートの耐タ 性向上」	文 原則0.3kg/m3以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合 は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試 鉄結果が塩化物総置の規制値の12以下の場合は、午 後の試験を各部することができる。(13試験の測定 の数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均	- 青村に施砂を使用する場合は、「施砂の塩化物イ オン各件単試験が注」 (355年-5502-2013, 503-2007) または設計図書の規定により行う。	施工	医 必 塩化 1. 須	化物総量規制	「コンクリートの耐久 性向上」	原則0.3kg/m3以下	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合 は、午前に1回コンリート打設前に行い、その試 製品表が進化物能量の規制値の12以下の場合は、午 後の試験を省略することができる。(大談歌の測定 回数は3回とする)。試験の判定は3回の測定値の平均	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イ オン含有率減極方法」(JSCE-C502-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。		
	相対	ックリートの圧 態度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。	信。 トンネル施工長40m毎に1回 材給7日,28日 (2×3=6 供試体)なお、テストビースは現場に配置された型 枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付 け、現場で7日間及び26日間放置後、65mmのコアー を切り取りキャビングを行う。1回に6個 (σ7~3 個、σ23~3個、)とする。			コン総独	・クリートの圧 塩度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2005	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以 上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の 平均値)	間。 トンネル施工長40m毎に1回 材齢7日,28日 (2×3-6 供試体) なお、テストピースは現場に配置された型 枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付	・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イ オン含有神経験方法」(ISCE-C502-2018, 503-2018) または設計図書の規定により行う。		
	吹作トのきせ	けコンクリー う初期強度(引抜 たん断強度)	(JSCE-F561-2013) 引抜き方法による吹作 けコンクリートの初着 強度試験方法 (JSCE-G561-2010)		トンネル施工長40mごとに1回			吹付トのきせ		(JSCE-F561-2013) 引抜き方法による吹付 けコンクリートの初期 強度試験方法 (JSCE-G561-2010)	1日強度で53/mm2以上	トンネル施工長40mごとに1回			
	そ スラ	シンプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 許容差±2.5cm	・荷卸し時 1個/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認 められた時。			そ スラ 他	ランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm末満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm	- 荷知し時 1回/日以上、標造物の重要度と工事の規模に応じ で20~15083ごとに1回、及び荷知し時に品質変化が 認められた時。		H	
			JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	・荷卸し時 1回/日または構造物の重要度と工事の規模に応じて 20~150m3ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認 められた時。			空気	《量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	生1.5% (許容差)	・荷知し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じ て20~150m3ごとに1回、及び荷知し時に品質変化が 認められた時。			
	コア 験	てよる強度試	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			コア 験	"による強度試	JIS A 1107	設計図書による。	品質に異常が認められた場合に行う。			

IJ			改定内容						
35 溶接工 施 必 引導試験:開先溶 JIS Z 2241 引張強さが母校の規格値以上。 工 須 接	部級片の衝散・2 18 2 3121 1号	35 溶接工 施工	必 引張試験: 開先溶 須 接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。	於酸片の形状:JIS Z 3121 1号 試験片の個数:2	・溶核方法は「日本道路線会道路線示方書・回解 売! 田郷等・網路料程20.8、溶技施工法 図-20.8。 開先溶接效業溶核方法による。 ・なお、過去に同等しくほそれ以上の条件で溶接 建工試験を行か、少施工経験をもっ工場では、そ の時の設策報告書によって制修し、溶接施工鉄業を 名略することができる。	0	
型曲(対抗験 (19mm U)S Z 3122	課題片の形状:JIS Z 3122 ・溶除方法は「日本道路協会道路標示方書・同祭 説」調機編組 4. 4時接出注。原-18. 4. 1開北溶接 レ 製機野力及による。(十年内 18. 4. 1開北溶接		型曲げ試験 (19am 未満裏曲げ) (19am以上側曲 げ):開先溶接	JIS Z 3122	●表示をしてはならない。 ただし、亀製の発生原因がブローホールまた はスラグ書き込みであることが確認され、かつ、亀製の長さが3mm以下の場合は許容する ものとする。	英製州の形状:JIS Z 3122 試製州の個数:2		0	
概算試験:開先海 JIS Z 2242 海接金属及び海接熱影響部で毎村の要求値 上 (それぞれの3億の平均値)。	施工試験を行い、かつ施工経験をもの工事では、そ の内の放験報告書によって新し、海接施工試験を 報酬することができる。 延続片の原数で置き、「日本海路協会連絡機介方書・同解 延続片の原数では、「日本海路協会連絡機介方書・同解 延続片の原数・各部位につき3 (本) (本) (は 大山の条件で溶接 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)		衝撃試験: 開先溶接	JIS Z 2242	溶接金属及び溶接熱影響部で毎材の要求値以 上(それぞれの3個の平均値)。	試験片の形状: JIS Z 2242 V/ッチ 試験片の形状: JIS Z 2242 V/ッチ 試験片の採取位置: 日本消散協会道路橋示方書・ 同解説, II剪標: 頻能材幅20.8.4溶接能工法 図ー 20.8.2前撃撃撃片 試験片の個数: 各部位につき3	-	0	
マクロ試験: 勝夫 JIS G 0553に楽じる。	が終方の個数:1 ・溶性方法は「日本道路協会道路橋売方書・同解 説」「銀橋衛は4.4端接車工法 店・18.4、1間先消接 が終着力点による。 ・なお、活在に同等しくはそれ以上の条件で溶接 加工経験を行い、から加工経験をもり工事ではた。そ の 電影することができる。 電影することができる。		マクロ試験: 開先溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があってはならない。	体験片の個数:1		0	
声級後級後、頭先 「日本祖郎協会通路場」同志 一方書。明報20、日本 一方書。明報20、日本 開議18、4、6外級を子政 後18、4、7月間を子政 者の規定による	試験片面音を表 第1 音響機関 4 4 4 4 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4	次項に続く	弄成 被以 赖:侧先 溶被	「日本道路協会道路機 示方書(同解説)日報 施・開始制度の8.6外 部とで検査。08.7内 部とで検査。08.7内 6.6 6	网左	以映片の個数:以映片継千金長	・高接方法は「日本道路協会道路総元方審・同解 別: 首領権・郷田が構造の、6 前接転工法 段一の。 現: 直接権・郷田が構造の、8 前接転工法 段一の。 現で経営機関が設定した。 の 10 の条件で結婚 転工規算を行い、かっ施工路等をもつ工事では、そ 有路することができる。 ・総対信属地理と力に提売情異解を行う者は、そ ・総対信属地理と力に提売情異解を行う者は、そ ・総対信息地域と力に提売情異解を行う者は、 とした可能を含化いなわけばなどの とはの情報を使じたりまる。 ・組織を指数を対していなわけばなります。 ・組織を対象とび認力に関連するれたのの ・場合の ・は ・は ・は ・は ・は ・は ・は ・は ・は ・は		
		(South Mark)							

现行 ————————————————————————————————————						改定内容							
マクロ試験: すみ 内溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があってはならない。	試験片の形状:「日本道路協会道路標示方書・回縁 設」当瞬幅編18.4 《路接施工法 第一8.4 3 すか肉溶 推試験 (マクロ試験)溶接方法及び試験片の形状 試験片の個数:1	・溶接方法は「日本道路協会道路模示方書・同解 認」 日報機能 84 名階接工法 第一8名 43 74 本内語 推試験 (マクロ試験) 溶接方法及 33 試験 10 の名 よる。 なる。過去に同等もしくはそれ以上の条件で設集 施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、そ の時の接機指動によって削断し、溶接施工試験を 物制することができる。	35 溶接工 施 工	必 マクロ試験: すみ 須 肉溶接	JIS G 0553に準じる。	欠論があってはならない。	技験片の形式: 「日本道路協会道路備示方書・同解 限」 1 事構・機能が構造 20.8. (溶接施工路 12-20.8.) マクロ 12 対象 が接方法及び映象片 収象 の形状 の形状 の形状 の形状 の形状 の形状 の形状 の形状	・溶接方法は「日本道路協会道路標序プ 3 説」 野棚・網部材鑑の & (溶接施工) プカスト語を映像でクロ映像) 溶接方法 の形状による。 小なお、過去に同等もしくはそれ以上の 施工映像を行い、かつ施工経験をもつる の時の映解報告書によって刊斯し、溶析 着貼するとかできる。			
引張試験:スタッ 。 ド溶接	JIS Z 2241	陽伏点は、235N/mm2以上、引張強さは、400 ~550N/mm2、伸びは20%以上とする。ただ し、溶接で切れてはいけない。	試験片の形状: JIS B 1198 試験片の個数:3	なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施 工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その 時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略 することができる。	0	引張試験:スタッ ド溶接	JIS Z 2241	降伏点は、235N/mm2以上、引張強さは、400 ~550N/mm2、伸びは205以上とする。ただ し、溶接で切れてはいけない。	試験片の形状: JIS B 1198 試験片の個数:3	過去に同等もしくはそれ以上の条件では を行い、かつ施工経験をもつ工場では、 験報告書によって判断し溶接施工試験を とができる。			
曲げ試験:スタッ ド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状: JIS Z 3145 試験片の個数:3	するとしかことで。 なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施 工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その 時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略 することができる。	0	曲げ試験:スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。	試験片の形状: JIS Z 3145 試験片の個数:3				
突合せ幾手の内部 欠陥に対する検査		ただし、寸法によらず表面に関ロした割れ等の配表すばあってはならない。なお、放射線透過試験による場合において、なお、放射線透過試験による場合においては、以下を消化す場合には合格としてよい。 引減な力を受ける溶接動は、13 2 3 104解異者・(直急を)を受ける溶接動は、13 2 3 104解異素・(正常・2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		「日本通常的企業国際の予ま、開発別」1回報車 ・ 一個14 41、一個中の回復選目を対す。上でのの 競きずりはの計算が決まれている。なお、表一個 競きずりはの計算が決まれている。なお、表一個 団は、「第二級の計算が決まれている。なお、表一個 団は、「第二級の計算が決まれない。」が参考にて きる。 近年間が表現の表別が表現である。 「非過度が表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である。」 「非過度を表現である」 「非過度を表現である。 「非過度を表現である。 「まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	0	突合士店は親手の 内部欠陥に対する 検査	JIS Z 3104 JIS Z 3060	機能で指出されたモディ加は、設計上等を たが出来すでいければならない。 ただし、す故によらず表面に関して発射を の配えをす出かってはならない。 ではなっない。 が関本が出れての実施をはいっては、以下 を満たす場合には多くない。 ・・引起た力を受ける溶板をは135 2 304所属 をはく通常が最によるギャの像の分割が、 ・上部収力を受ける溶板をは135 2 304所属 高速を指したそギャの像の分割が、 ・上部収力を受ける密板を加上、135 2 310所属 高速を指したときずの像の分割が 助したディオ権以上とする。	接射感光器原物の場合はJIS Z 31941による。 動名表現像映像(平展像)の場合はJIS Z 3060によ る。	1日 上走路報会連邦報告方法 「同報 開版料理 大学 一大学 一大学 一大学 一大学 一大学 一大学 一大学 一大学 一大学			
外観検査(割れ)	・目視	あってはならない	検査体制、検査方法を明確にした上で目接検査する。目視は企延長実施する。日視は企延長実施する。ただし、疑わしい場合 は、磁物探傷試験または浸透探傷試験を用いる。	磁粉探傷試験または洗透探傷試験を行う者は、それ ぞれの試験の種類に対応した。JIS 2 2025 (非硫糖試 験 技術者の資格及び認証) に規定するレベル2以上 の資格を有していなければならない。		外観検査 (割れ)	・目視	あってはならない	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延炎実施する。目視は全延炎実施する。ただし、判定が困難な 場合は、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を用いる。	磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行 ぞれの試験の種類に対応したJIS Z 23 験・技術者の資格及び認証)に規定する の資格を有していなければならない。			
外観形状検査 (ピード表面の ピット)	ı	主要部材の突合せ継手及び断面を構成するT 継手、角継手には、ビード表面に少り入り あってはならない。その他のすみ肉溶接及び 動分溶込み開冷溶接には、1 継手につき3 個 または継手長さ1 mにつき3 個までを許容す もものとする。ただし、ビットの大きさが1 m以下の場合は、3 個を1 個として計算する ものとする。ただし、ビットの大きさが1	検査体制、検査方法を明確にした上で目現確認によ り疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す る。			外観形状検査 (ビード表面の ビット)	目視ノギス等による計測	新面に考慮する安全は溶接機手、十字溶接機 手、T溶接機手、負溶接機手には、ビード表 面にビットがあってはならない、その他のする 丸肉溶接及び感少溶込み関先溶除には、1機 キにつき3個または離手長さ1mにつき3個 定でを許容するものとする。ただし、ビット の大きさが1mに1アの場合は、3個を1個と して計算するものとする。	検査体制、検査方法を明確にした上で目提帳型により 駅わしい備所を測定する。目視は全延長実施す 6。				
外観形状検査 (ビード表面の凹 凸)	目視ノギス等による計測	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認によ り疑わしい箇所を測定する。目視は金延長実施す る。			外観形状検査 (ビード表面の凹 凸)	目視ノギス等による計測	ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認により 取わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す る。				
施 必 外観形状検査(余 エ 須 嘘高さ)		設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない間先溶接 は、以下に来す範囲内の発達りは仕上げなく てよい。余盛高さが以下に来す値を放えのに仕 上げるものとする。 日本(日本)とは、特には「簡節を滑らかに仕 上げるものとする。 B<15 ト≤3 たり	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認によ り疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す 6。			外観形状検査(余 盛高さ)	目視ノギス等による計測	は、以下に示す範囲内の余盛りは仕上げなく てよい。余盛高さが以下に示す値を超える場 所は、ビート形状、特に止端部を潜らかに仕 上げるものとする。 ビート編(B[mm1) 余盛高さ(h[mm1)	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認により 取扱わしい個所を測定する。目視は全延及実施する。				
外翻形状检查	· 日 #0	25≦B : h≦ (4/25) • B	 					B<15 : h≦3 15≦B<25 : h≦4 25≦B : h≦ (4/25) • B					
外観形状検査 (アークスタッ ド)		・クラック及びスラグ巻込み:あってはならない。 ・アンダーカット:銀い切欠状のアンダーカットがあってはならない。ただし、グラインダー仕上げ量が0.5mu以内に納まるものは仕上げて各格とする。 ・スタッドジベルの仕上り富さ:(段計値)	審査体制、検査方法を明確にした上で目現程認により扱わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。			外観形状検査 (アークスタッド)	目視ノギス等による計測	・余盛の形状の不整・余盛りは全周にわたり 空間していなければならない。なお、余盛り は高さはm。幅の、ma以上・ 新社及びスラで込み・かってはならない。 ・アンターカット:鋭い切火状のアンター カットがあってはならない。ただし、グライ メディーなどのではならない。ただし、グライ 仕上げぐ合格とする。 ・スタッドジャルの仕上り高さ:(設計値±	検査体制、検査方法を明確にした上で目現確認によ り疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す る。				
外観形状検査 (ア ンダーカット)		ZMM) を超えてはならない。	接査体制、検査方法を明確にした上で目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は金延長実施する。	・「日本連絡協会連絡構示方書・同解説」 I 類構構 表一解18.4 4に各種手の強度等級を満たす上でのア ンダーカットの許容値が示されている。表一解 18.4 4に示えれていない種手のアンダーカットの許 容値は、「調道路構の衆労設計指針II4.3」が参考に できる。		外観形状検査 (ア ンダーカット)	目視ノギス等による計測	Zmm) を超えてはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延炎実施する。	・「日本道路協会道路橋示方書・同所 表一解20.8.4及び表一解20.8.5に各級 を満たす上でのアンダーカットの許容 いる。表一解20.8.4及び表一解20.8.5 ない継手のアンダーカットの許容権は1			
外観形状検査 (オーバーラッ ブ)	目視ノギス等による計測	あってはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査す る。							ない継手のアンダーカットの許多値は 協会道路橋示方書・同解説」II網橋・ 継手の後度等級に示されている。			
外観形状検査(す み肉溶接サイズ)		すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ 肉サイズおよびのど厚を下回ってはならない。 ただし、1溶接線の雨端各50mmを除く部分で は、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認によ り疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す る。			外観形状検査 (オーバーラッ プ)	・日視・ノギス等による計測	あってはならない。	検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。				
そ ハンマー打撃試験 /		は、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに-1.0mmの誤差を認めるものと する。 翻れ等の欠陥を生じないものを合格。				外観形状検査(す み肉溶接サイズ)	目視ノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ 肉サイズおよびのど厚を下回ってはならな い。 だだし、1溶接線の両端各50mmを除く部分で は、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及 びのど厚ともに-1.0mmの膜差を認めるものと	検査体制、検査方法を明確にした上で目視確認により 取わしい箇所を測定する。目視は全延長実施す る。				
セ ハンマー打 幸納家 アの他	パンムー刊書	耐れ等の欠陥を生しないものを責備。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルに ついて全数。 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から 1 %について抜取り曲げ検査を行なうものとする。	- 余速が包囲していないスタッドジベルは、その方 向と反対の15°の角度をで曲げるものとする。 ・15°曲げて大阪側の主じないものは、元に戻すこ となく、曲げたままにしておくものとする。		そ ハンマー打撃試験 の	ハンマー打撃	びのど厚ともに-1.0mmの胸差を認めるものとする。 耐れ等の欠陥を生じないものを合格。	外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルに ついて全数 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から 1%について接取り曲げ検査を行なうものとする。	・余盛が包囲していないスタッドジー 向と反対の15°の角度まで曲げるもの ・15°曲げても欠陥の生じないものに となく、曲げたままにしておくものと			

現行	改定内容
新規追加	